

# 2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年 11月 14日

株式会社ジェイテクト

**1. 2019年 3月期 第2四半期業績**

**2. 2019年 3月期 通期業績予想**

**3. 中期経営計画の進捗状況**

# 1-1) 連結損益

物量の増・M&Aの効果により増収も、  
売価水準ダウン・費用増が大きく、減益

(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減額	増減率
売上高	6,822	7,429	+ 606	+ 8.9%
営業利益	(5.2%) 352	(4.4%) 325	△ 26	△ 7.5%
経常利益	(5.6%) 379	(4.7%) 347	△ 32	△ 8.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(4.2%) 286	(2.6%) 190	△ 96	△ 33.6%
為替レートの (4月～9月)	111円/USD 126円/EUR	110円/USD 130円/EUR	1円円高 4円円安	

( )は、売上高利益率

		18/3期	19/3期	増減額
配当金	中間	21円	22円	+ 1円
	期末	22円	22円	—

# 1-2) 営業利益の増減分析

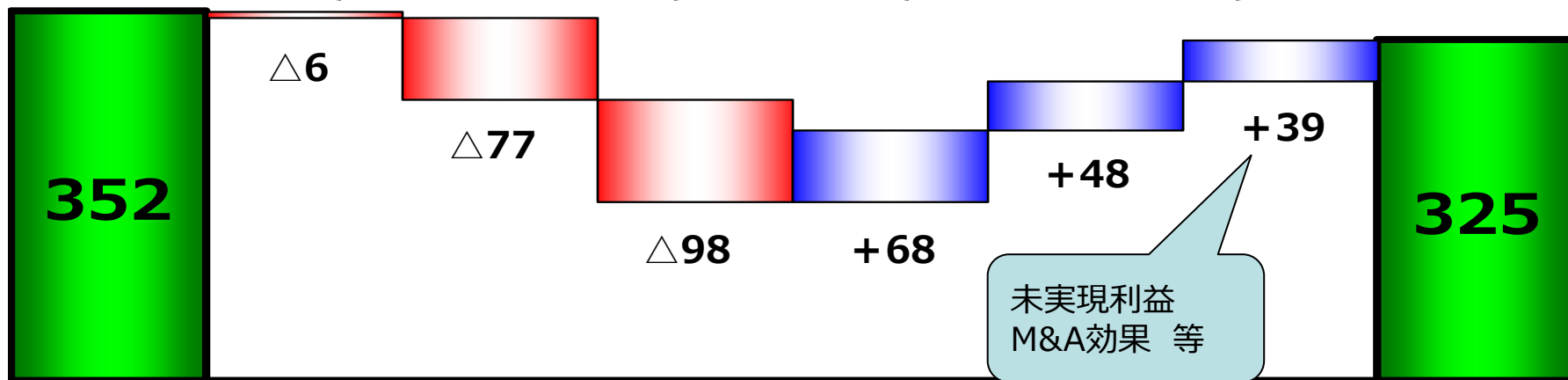
売価水準ダウン・費用増を、増収効果・原価改善でカバーできず

営業利益 26億円の減益

減益要因 181億円

増益要因 155億円

(億円)



18/3期  
2Q累計

為  
替  
差

ダ  
売  
価  
ウ  
水  
準  
ン

費  
用  
増

に  
実  
質  
売  
上  
増  
よ  
る  
利  
益  
増

原  
価  
改  
善

そ  
の  
他

19/3期  
2Q累計

# 1-3) 事業別業績

## 機械器具部品

増収やM&Aの効果があるも、売価水準ダウン・費用増により減益

## 工作機械

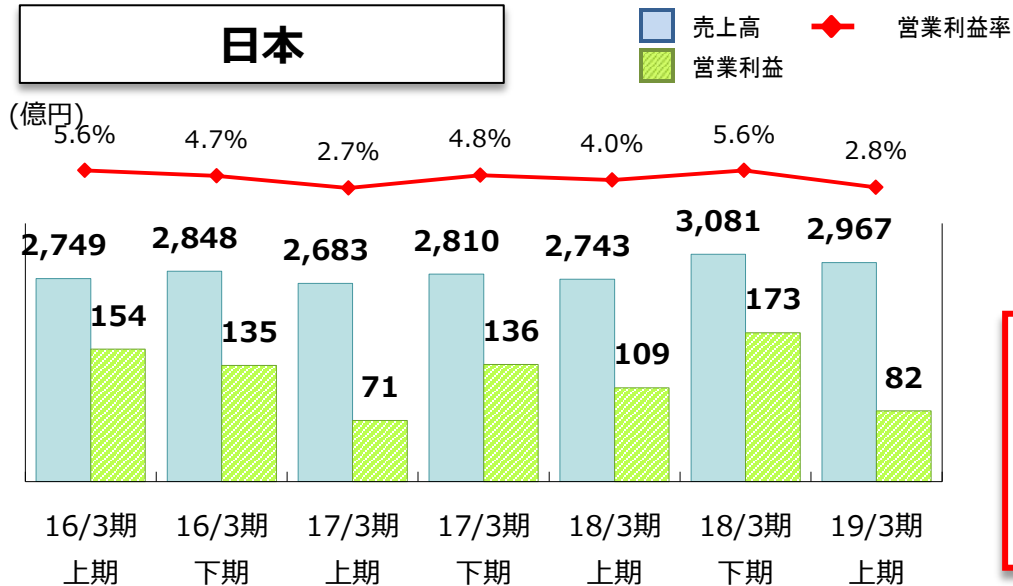
日本・北米を中心に販売堅調で、増収増益

(億円)

		18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減額	増減率
機械器具部品	売上高	6,074	<b>6,580</b>	+ 505	+ 8.3%
	ステアリング	3,331	<b>3,698</b>	+ 367	+ 11.0%
	駆動	694	<b>769</b>	+ 75	+ 10.9%
	軸受	2,049	<b>2,112</b>	+ 62	+ 3.1%
	営業利益 (利益率)	301 (5.0%)	<b>244</b> (3.7%)	△ 56	△ 18.8%
工作機械	売上高	748	<b>848</b>	+ 100	+ 13.5%
	工作機械	740	<b>840</b>	+ 100	+ 13.5%
	その他	7	<b>8</b>	+ 0	+ 10.0%
	営業利益 (利益率)	48 (6.5%)	<b>77</b> (9.2%)	+ 29	+ 60.2%

# 1-4) 法人所在地別業績①

## 日本



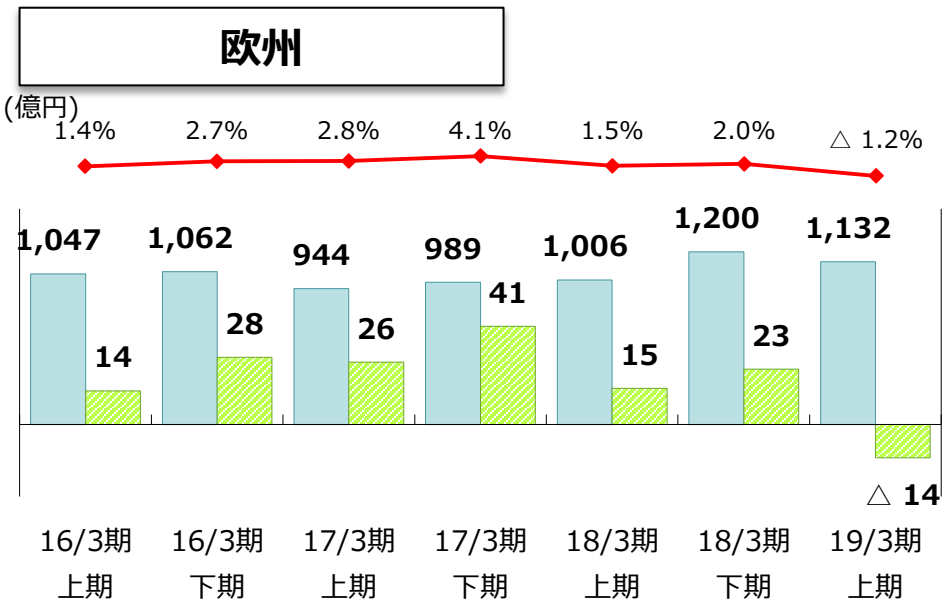
(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売上高	2,743	2,967	223
営業利益	109	82	△ 26
利益率	4.0%	2.8%	—

### 増収・減益

○ M&Aや物量増の効果があるも、  
労務費・研究開発費等の増により減益

## 欧州



(億円)

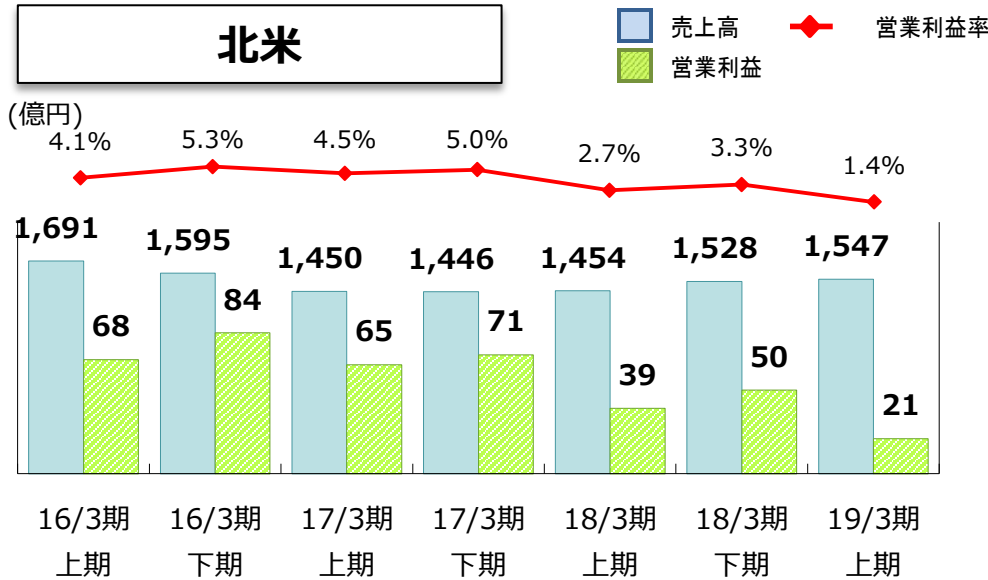
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売上高	1,006	1,132	125
営業利益	15	△ 14	△ 29
利益率	1.5%	△ 1.2%	—

### 増収・減益

○ 次世代EPSの立上げに伴う費用増や  
軸受の生産性悪化により減益

# 1-5) 法人所在地別業績②

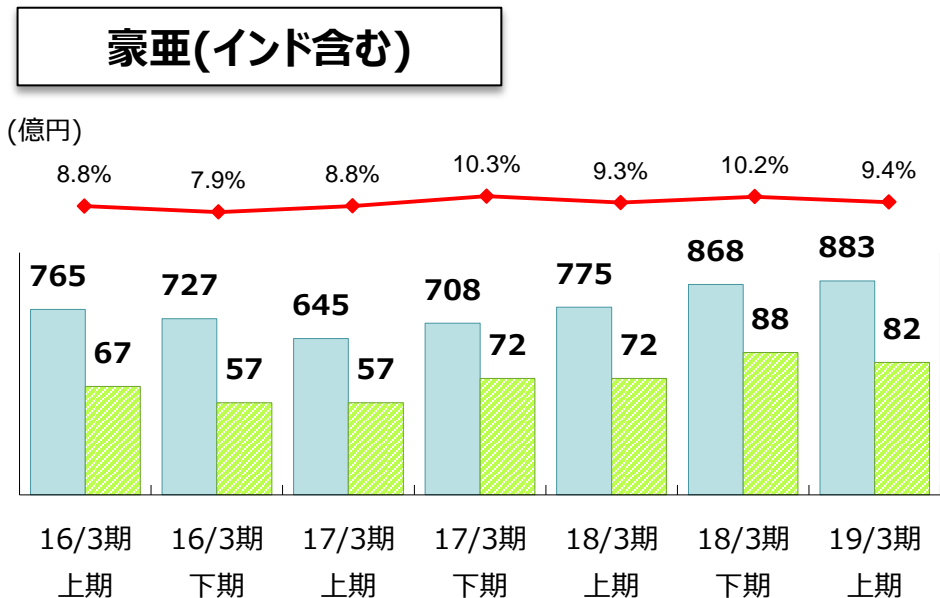
(億円)



	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売上高	1,454	1,547	92
営業利益	39	21	△ 17
利益率	2.7%	1.4%	—

## 増収・減益

- 次世代EPS立上げに伴う費用増や、駆動・軸受の収益性低下により減益



(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売上高	775	883	107
営業利益	72	82	10
利益率	9.3%	9.4%	—

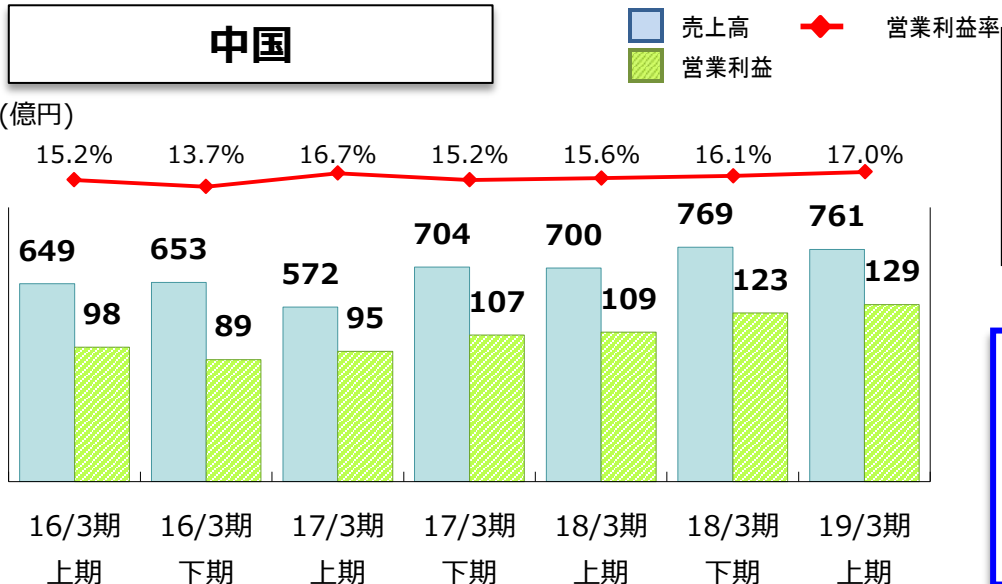
## 増収・増益

- M&A効果・物量の増により増収増益

# 1-6) 法人所在地別業績③

## 中国

(億円)



(億円)

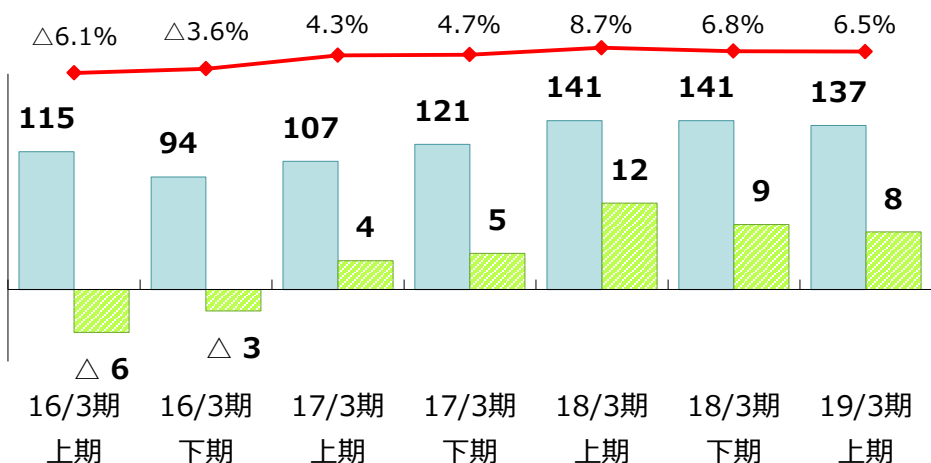
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売上高	700	761	60
営業利益	109	129	20
利益率	15.6%	17.0%	—

### 増収・増益

○M&A効果もあり増収増益

## 南米他

(億円)



(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売上高	141	137	△4
営業利益	12	8	△3
利益率	8.7%	6.5%	—

### 減収・減益

○物量は増加したものの、  
為替影響により減収減益



1. 2019年 3月期 第2四半期業績

2. 2019年 3月期 通期業績予想

3. 中期経営計画の進捗状況

### 世界経済

- 金融緩和政策や米国の減税政策により、緩やかな経済成長を維持
- 米国の輸入関税強化や保護主義的政策により、先行き不透明
- 貿易摩擦による中国経済の減速懸念
- 英国の、合意なきEU離脱に対する懸念

### 日本

- 貿易摩擦の激化に伴い先行き不透明、経営環境の変化を注視

# 2-2) 2019年3月期 業績予想

為替によるマイナス影響があるものの、  
M&Aや物量増加の効果、原価改善により増収増益の計画

(億円)

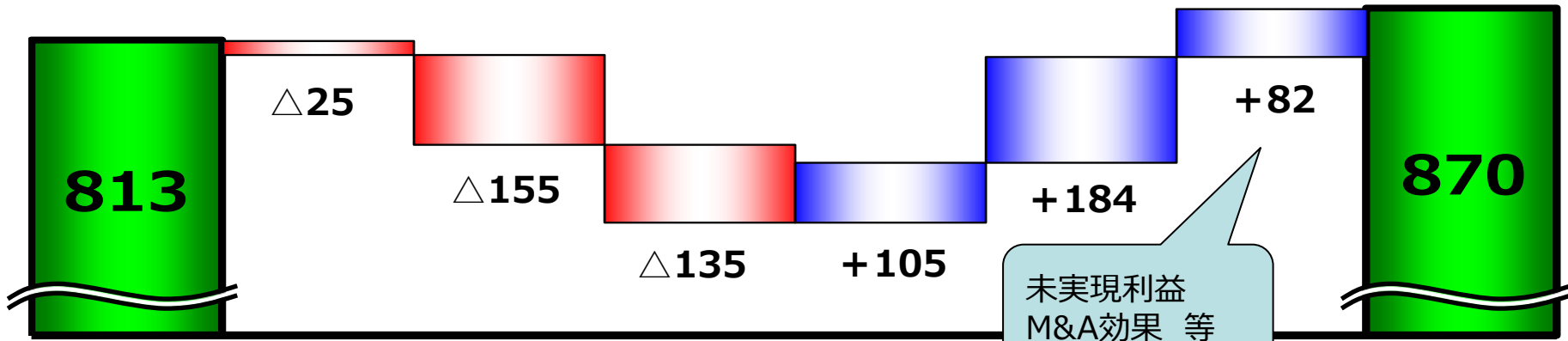
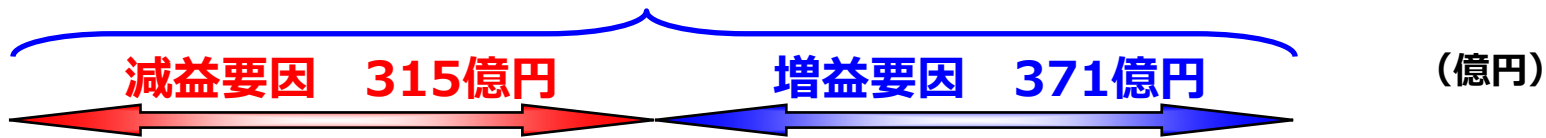
	18/3期 通期(実績)	19/3期(予想)			増減額	増減率
		上期(実績)	下期(予想)	通期(予想)		
売上高	14,411	7,429	7,570	15,000	+ 588	+ 4.1%
営業利益	(5.6%) 813	(4.4%) 325	(7.2%) 544	(5.8%) 870	+ 56	+ 6.9%
経常利益	(5.7%) 825	(4.7%) 347	(6.8%) 512	(5.7%) 860	+ 34	+ 4.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	(3.4%) 496	(2.6%) 190	(4.8%) 359	(3.7%) 550	+ 53	+ 10.7%
為替レートの (4月～3月)	111円/USD 130円/EUR	110円/USD 130円/EUR	105円/USD 130円/EUR	108円/USD 130円/EUR	3円円高 —	
設備投資額	666	321	398	720	+ 53	+ 8.0%
減価償却費	604	316	323	640	+ 35	+ 5.9%
配当金	43円	22円	22円	44円	+ 1円	

( ) は、売上高利益率

# 2-3) 営業利益の増減分析 (前期実績 vs 当期予想)

売価水準ダウン・費用増を、増収効果・原価改善でカバー、M&A効果もあり、増益の計画

営業利益 56億円の増益



18/3期	為替差	売価水準	費用増	実質売上増による利益増	原価改善	その他	19/3期

1. 2019年 3月期 第2四半期業績

2. 2019年 3月期 通期業績予想

**3. 中期経営計画の進捗状況**

# 目次

## 1. 中期経営計画における各事業戦略

- 1) サマリー
- 2) ステアリング事業
- 3) 駆動事業
- 4) 軸受事業
- 5) 工作機械・メカトロ事業
- 6) 新規事業の取り組み

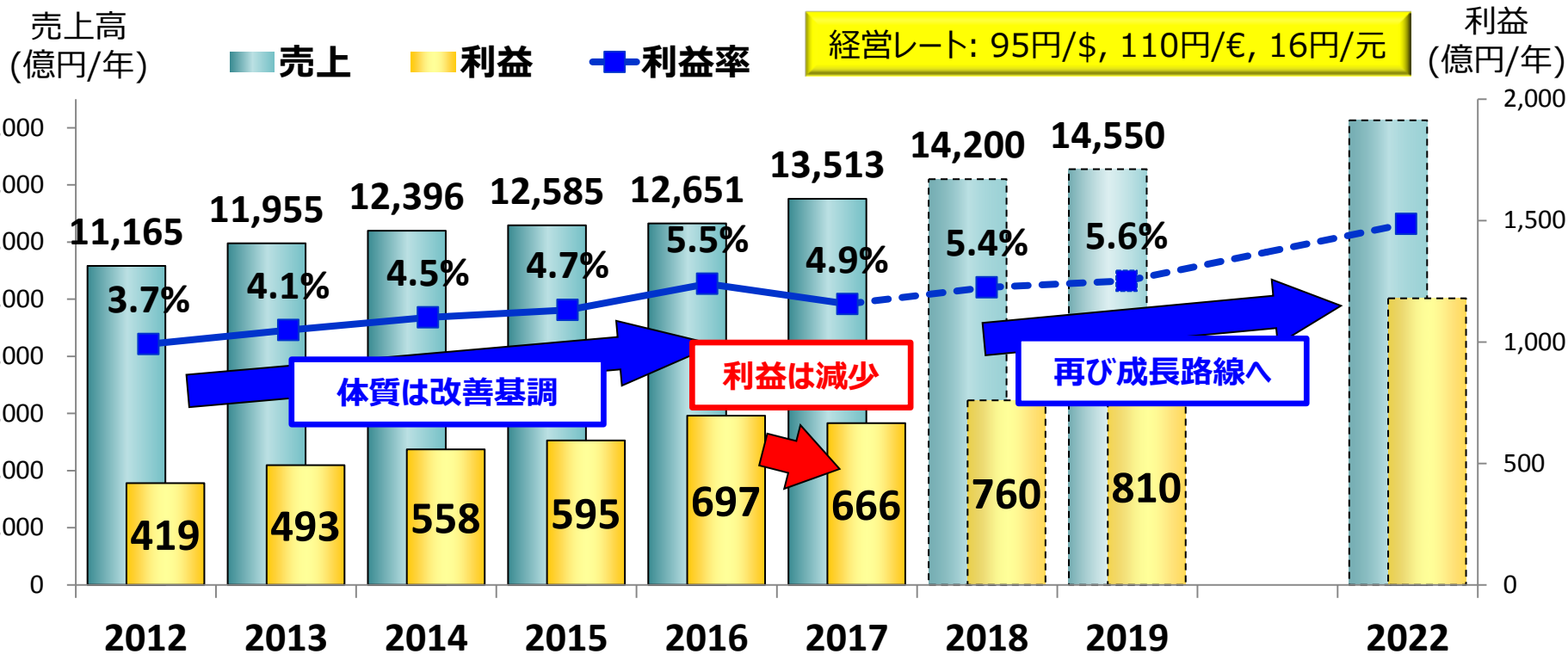
## 2. 企業価値向上に向けた取り組み

# 1) サマリー

# 3-1-1) 損益の推移 (経営レート)

為替の影響を除くと、16年度まで体質は改善してきたが、  
 17年度は、①北米での次世代EPS立ち上げ、  
 ②ADAS・IoE等の将来への弾込め費用等により減益

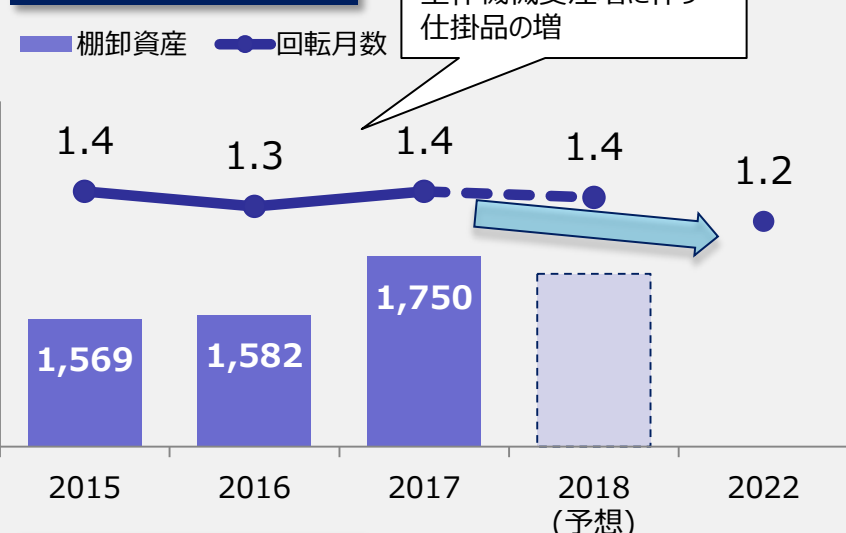
→各事業の生産性向上、次世代EPSの収益改善により、  
 18年度は16年度レベルに戻し、再び成長路線へ



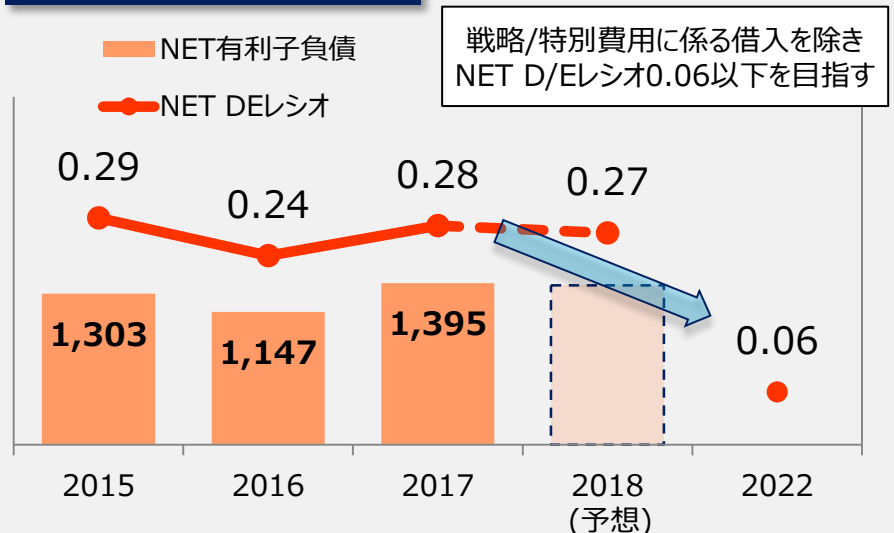


# 3-1-1) 経営指標 (連結)

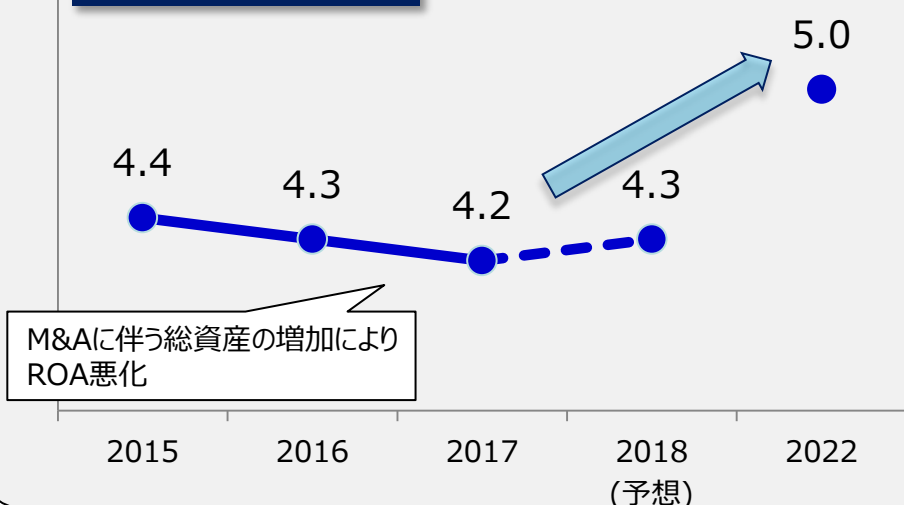
## 棚卸資産



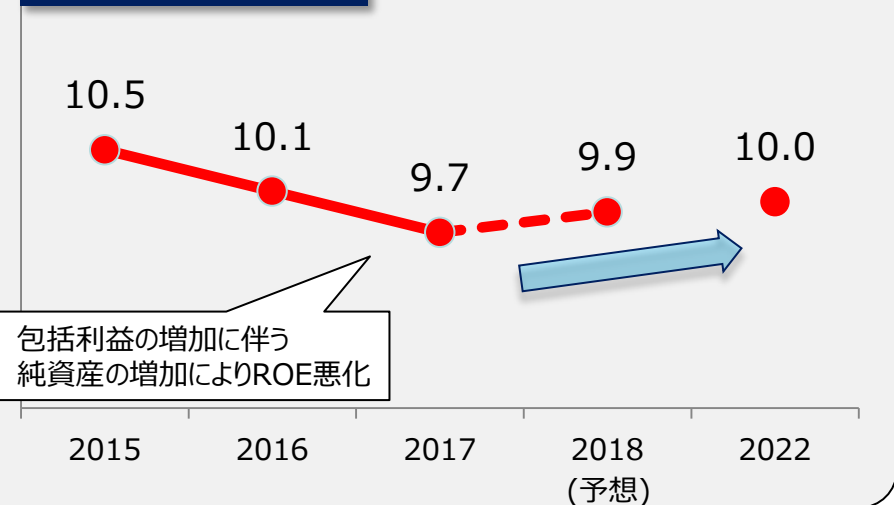
## NET有利子負債



## ROA



## ROE



## 2)ステアリング事業戦略

ステアリングトップシェアを維持し続けるとともにADAS等のステアリング先進技術のトップランナーとしてNo.1&Only Oneであり続ける

環境変化

市場/テクノロジーの変化

- ・EPS化の加速(大型車/商用車)
- ・操舵安定性(快適さ)の向上要求

- ・自動運転、安全ニーズの増加

着眼点

- ✓ラックアシストEPS強化
  - 技術の確立
  - 収益力強化

- ✓ADASステアリング強化
- ✓制御開発力の深化

方策

ラックアシストEPSの  
確実な立上げと  
事業拡大

未来のクルマ社会への貢献に向けた新技術開発

次世代交通  
システム

自動運転対応  
新システム

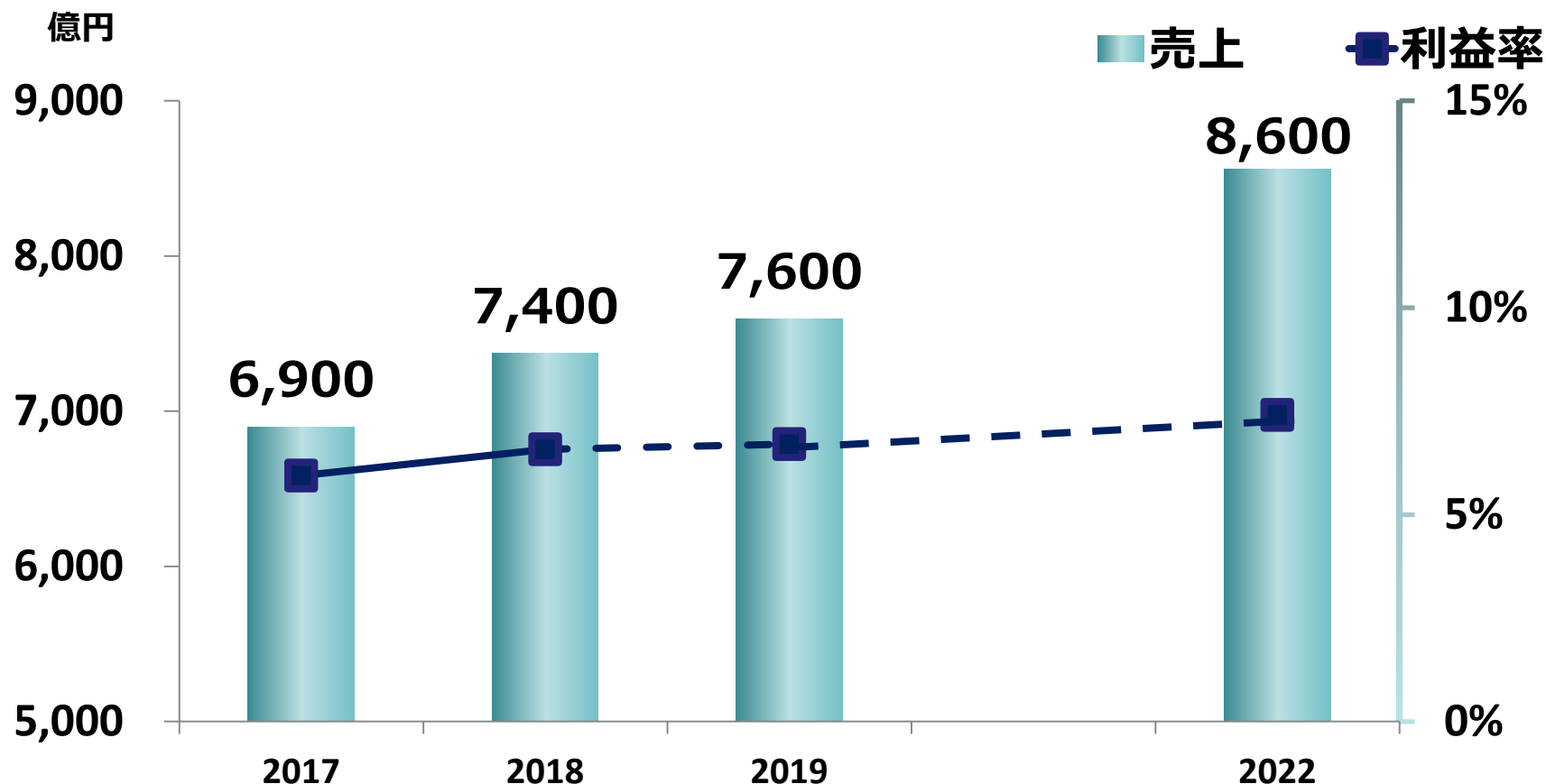
4社  
協業

# 3-1-2) ステアリング 中期事業計画の見通し

2018年度通期の売上・利益見通し

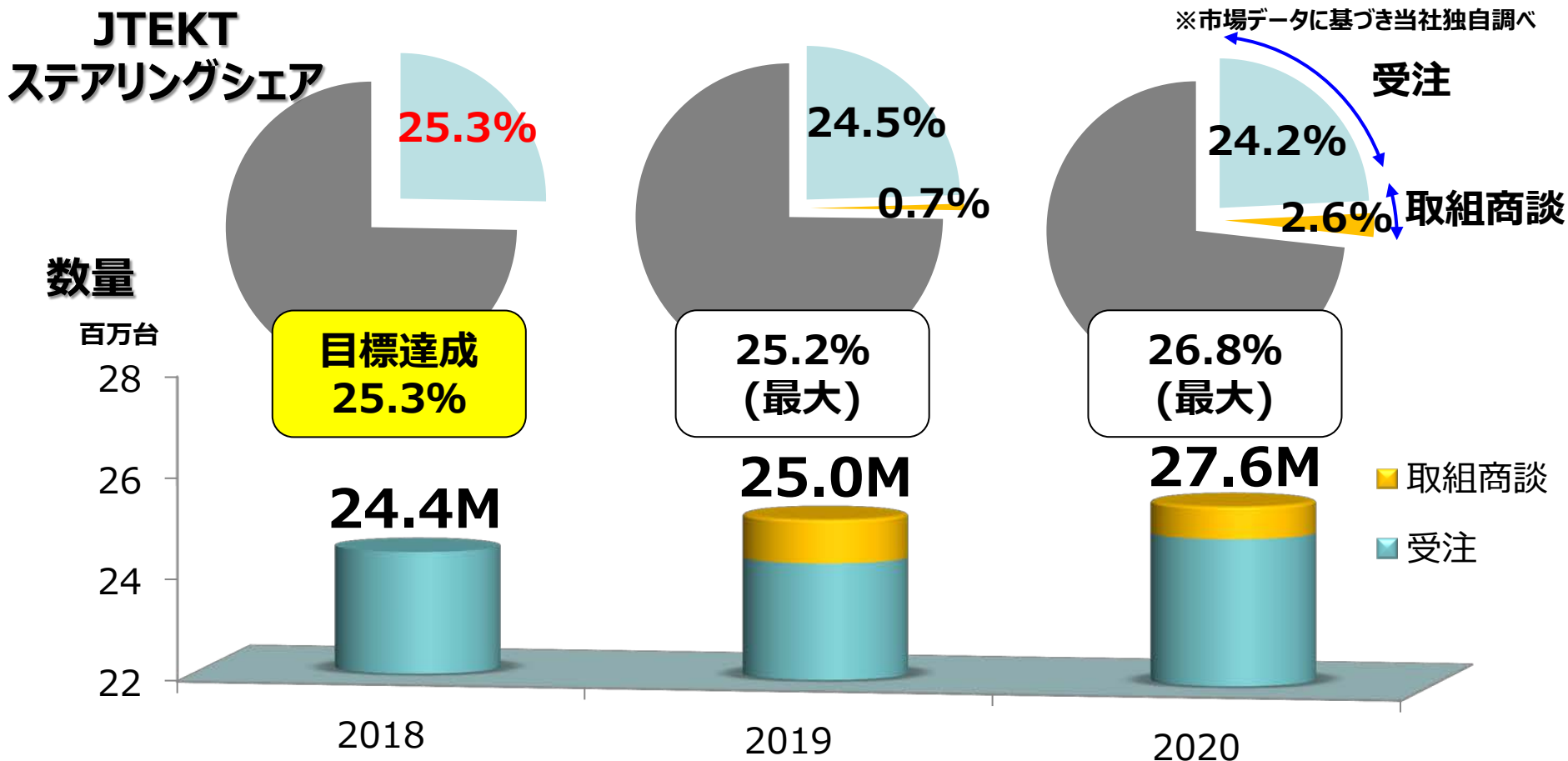
95円/\$, 110円/€, 16円/元

上期：ラックアシストEPSの立上げ苦戦により利益計画未達  
 下期：課題解決にも目途を付け、数量増に伴い利益挽回



# 3-1-2) JTEKTシェア達成状況

中計目標 “シェア25%” : 2018年度 達成



取組商談の多くが2018年度にサプライヤー決定予定  
2019年以降、目標シェア達成に向け受注活動を推進中

# 3-1-2) ラックアシストEPSの強化

## ラックアシストEPSの仕事量増加を確実に収益に繋げる

足元固め

プレミアム車両のラックアシストEPS受注

車両での要求性能レベルが想定以上で  
生産準備と同時並行で設計変更発生

量産立上げが難航

- ・設計固定 18/9 済
- ・生産トライ 企画値達成  
18/10確認 済

製品	地域	~'17年	'18年	'19年	'20年	'21年	'22年
DP-EPS	日本				# 1	# 2ライン	
	北米		# 2ライン		# 3ライン		
	欧州		# 3ライン	# 4ライン			
	中国		# 2ライン		# 3ライン	# 4ライン	
RP-EPS	日本					# 3ライン	
	北米					# 3	# 4ライン
	中国			# 1ライン			# 2ライン

18年⇒22年  
生産台数  
約2倍

足元固め

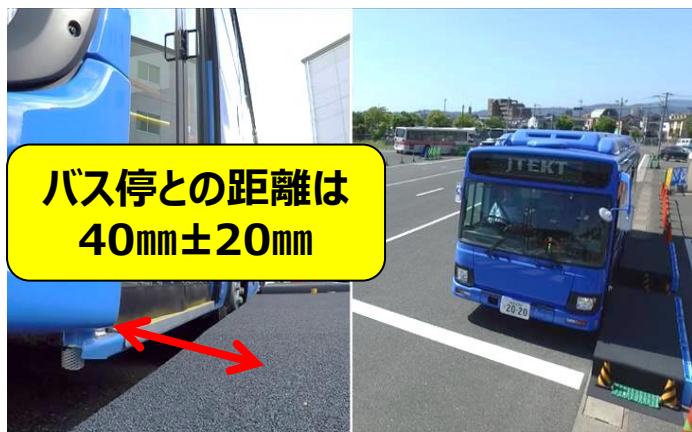
仕事量拡大

## 自動運転制御、正着制御によりすべての人に優しく、 使いやすい次世代都市交通社会へ貢献

2018年 5月8日～10日に  
福岡で開催された、アジア太平洋  
地域 ITSフォーラムにて自動運転  
による周回走行および、バス停への  
正着制御を実施



自動運転による周回走行の様子



バス停への正着制御



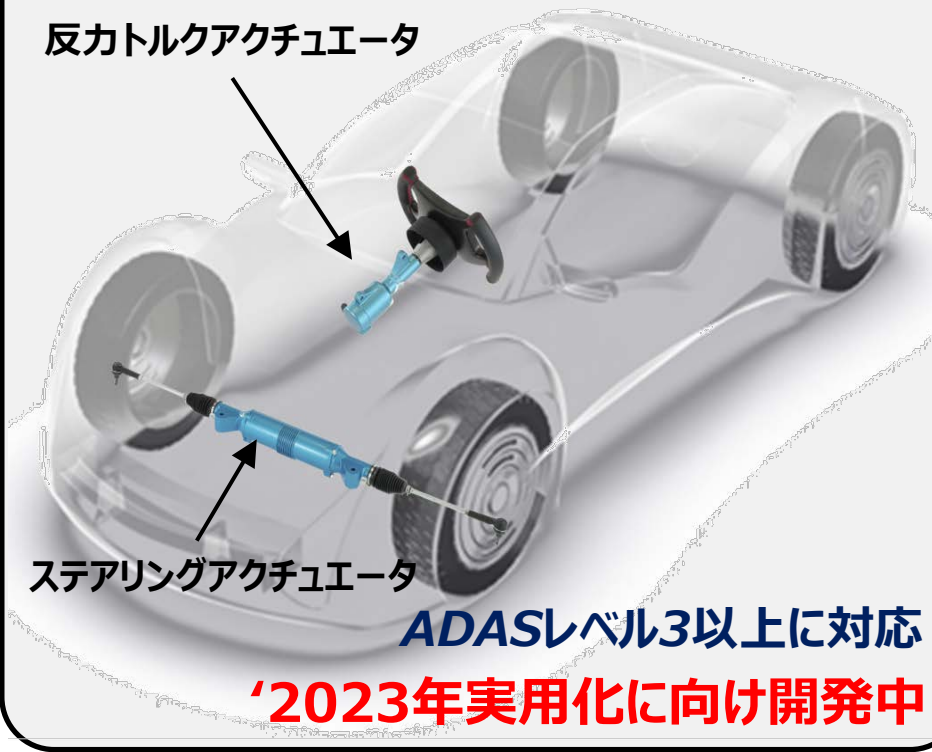
高齢者、車いす、ベビーカー利用者が  
介助なしでスムーズに乗降

※「本内容は、内閣府が推進する「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）自動走行システム／大規模実証実験」において、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）より委託を受けて開発中の技術です。」

## 交通事故“ゼロ”社会への貢献

### Link-less Steer By Wire

反カトルクアクチュエータ



ADASレベル3以上に対応

'2023年実用化に向け開発中

- ・自動運転、高度運転支援実現による安心、安全の提供

- ・快適なドライビングを実現  
車両応答性、路面情報の  
フィードバック自由度向上

- ・レイアウトフリーで  
居住空間拡大に貢献



# 3-1-2) 4社協業

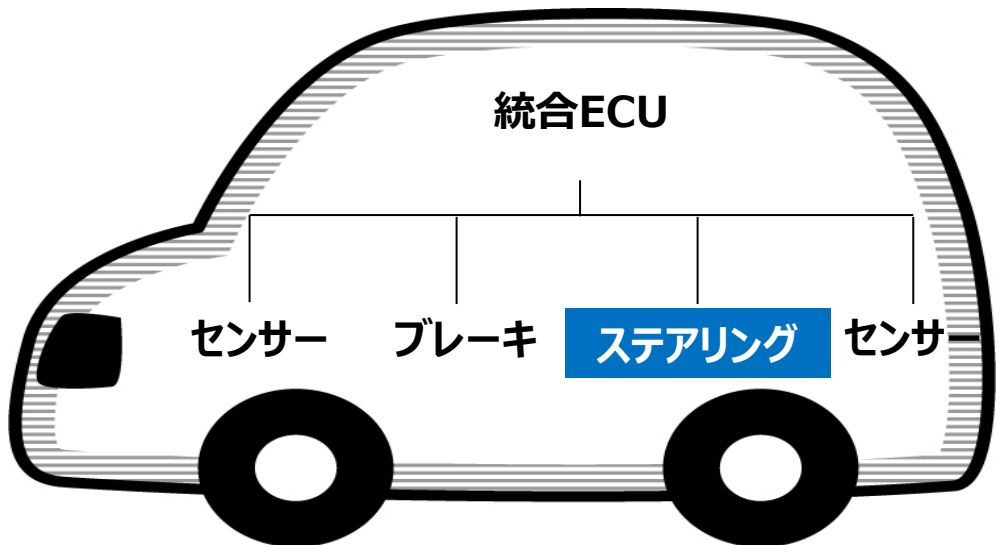
誰もが安心・安全に移動できる自動運転の実現に貢献

車両を上手に  
曲げる

安心  
安全

タイヤを曲げる

4社の知見を結集し、  
より高度な自動運転の実現



**自動運転用  
ソフト開発会社  
設立に合意**

※'19年3月設立予定

**制御ソフト**

出資比率

DENSO	65%
AISIN	25%
ADVICS	5%
<b>JTEKT</b>	5%

# 3) 駆動事業戦略

# 3-1-3) 駆動事業 成長戦略

AWDや油圧などの強みを活かした特徴あるシステムサプライヤとして  
駆動事業におけるNo.1&Only Oneを目指す

環境変化

市場の変化

- ・新興国市場の成長
- ・グローバル商談化
- ・システム提案力の要求

テクノロジーの進化

- ・電動化、自動運転化、A I 進化
- ・環境対応技術

着眼点

ドライブライン製品の競争力  
向上で新興国市場を拡販

油圧システム技術でEVモーター冷却・新トランスミッション潤滑に対応

4WD車のシステム開発力でコンベンショナル製品から電動化まで対応

方策

ドライブライン領域の深化

油圧システム強化

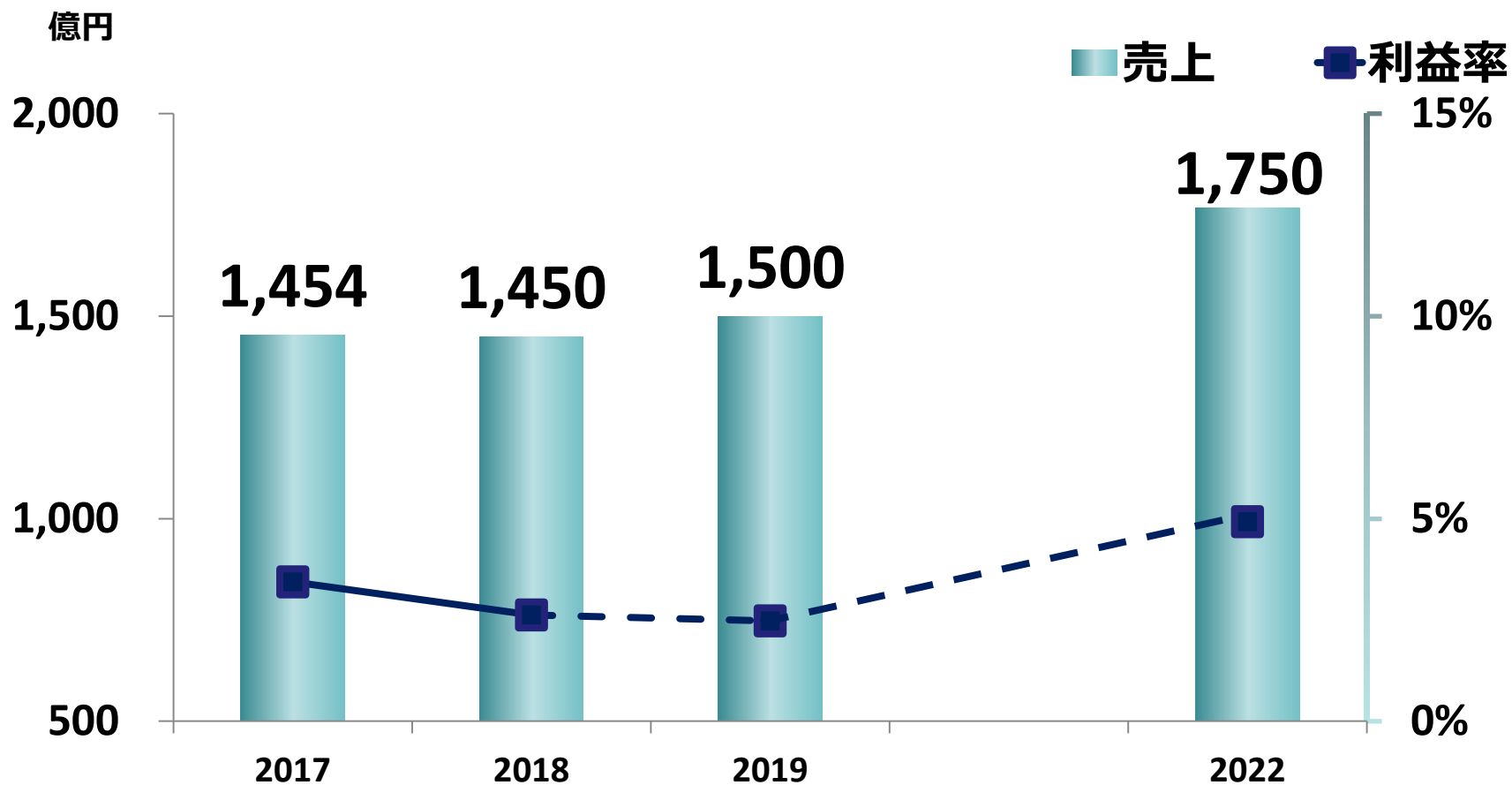
AWDシステム対応

# 3-1-3) 駆動事業 中期事業計画の見通し

2018年度通期の売上・利益見通し

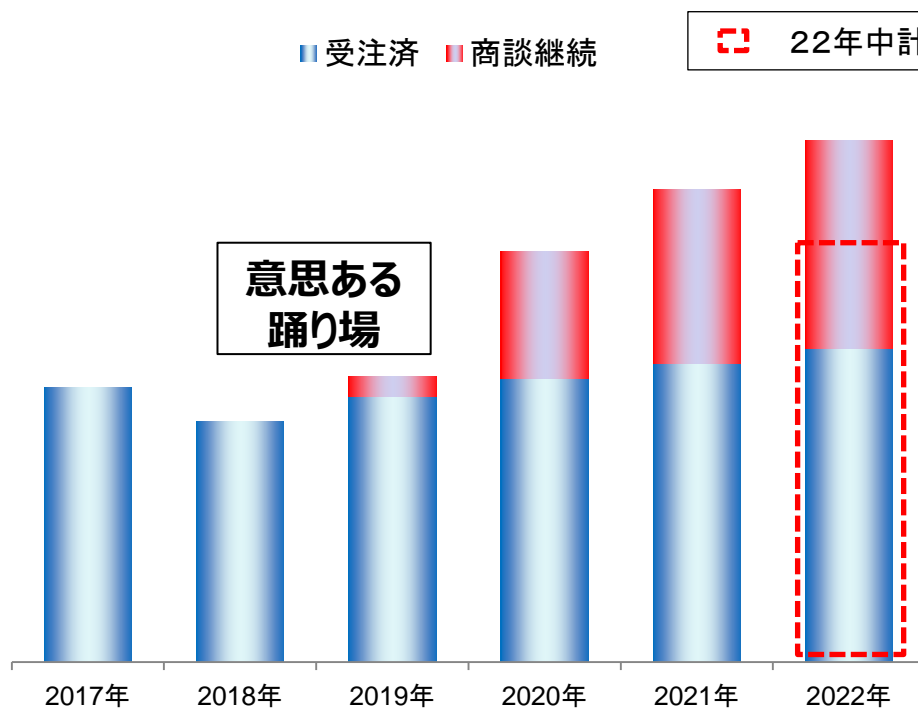
95円/\$, 110円/€, 16円/元

上期：販売が好調で売上計画を達成  
下期：更なる上積みを目指す



意思ある踊り場を経て、受注は右肩上がり  
電動化の需要を取り込み更なる成長を見据える

## ドライブシャフトの受注状況



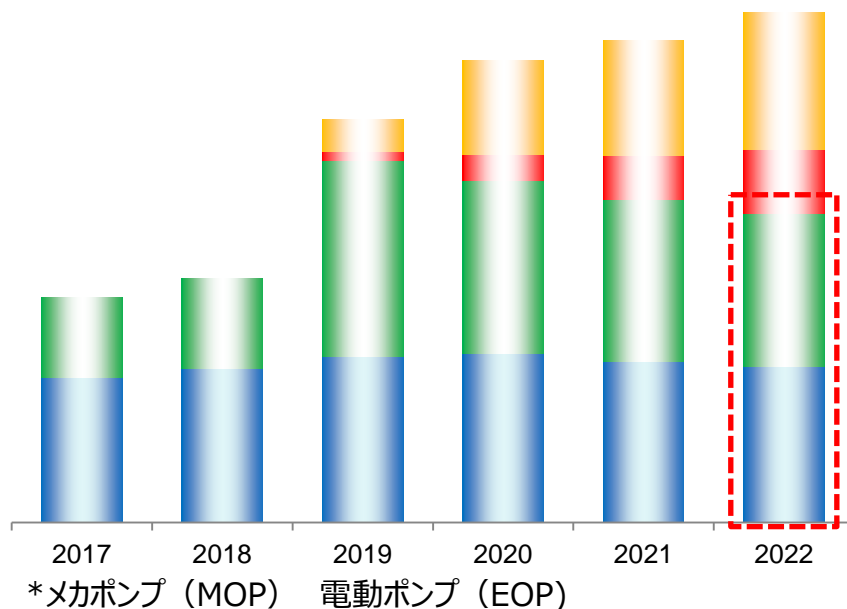
- 中計を上回るペースで受注
- 更なる成長に向けた基盤強化
  - ラインナップ拡充
  - 電動モーターへの対応  
(剛性最適化・低振動)
- 需要の高い地域を中心とした最適なグローバル生産体制を充実

## 強みを活かし電動化・省エネルギーでの用途拡大を狙う 電動ポンプはEV向け新製品を受注し現地生産を予定

### メカポンプと電動ポンプの受注状況

■ MOP受注済 ■ EOP受注済 ■ MOP継続取組 ■ EOP継続取組

22年中計



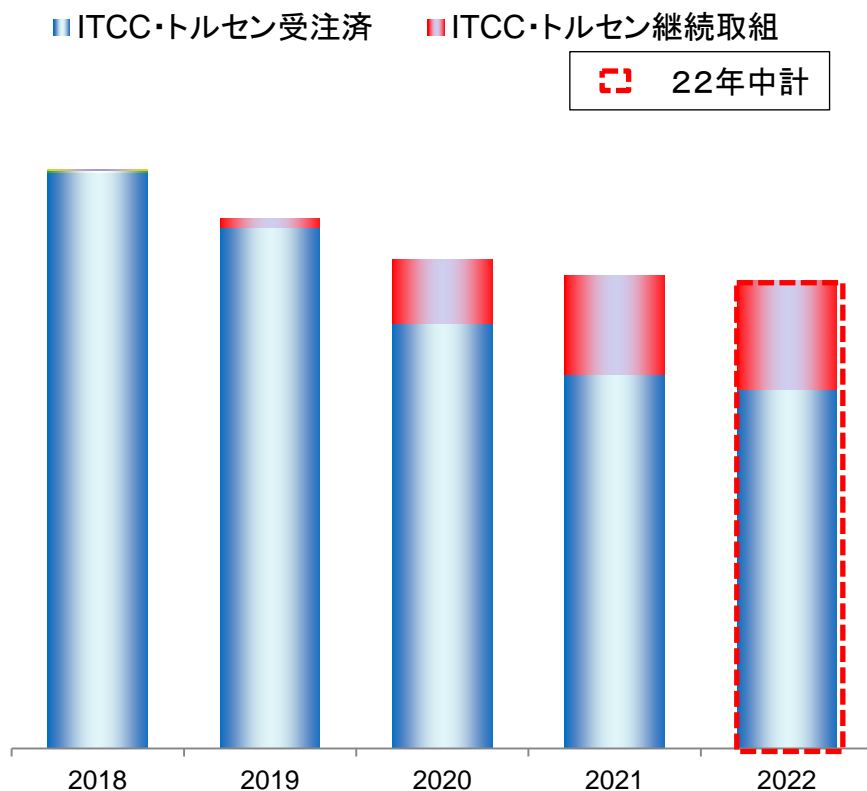
- 中計を上回るペースで受注
- 油圧への知見を活かしアクチュエーター・潤滑の両領域を進化⇒電動化・省エネルギーでの用途拡大

EVモーター冷却用EOPを初受注  
\* 2020年11月に欧州生産開始

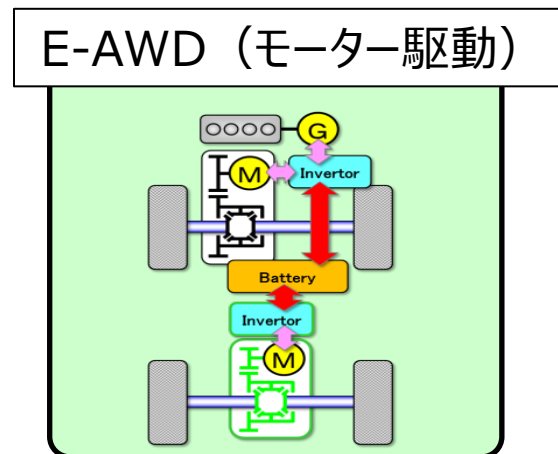
- グローバル生産対応を推進

電動化を見据えたE-AWDシステムの実用化を目途付け  
引き続き需要のある従来システム改良との両面で対応

## ITCCとトルセンの受注状況



- 中計は北米の減少を織り込み減少傾向だが、日本を中心に受注継続
- 23年以降に向け、コンベの拡販に加えモーター駆動技術開発取り組み



## 4)軸受事業戦略



# 3-1-4) 軸受事業 成長戦略

継続して価値を創造し、お客様へ感動を与え賞賛される事業  
 ～Koyoブランドを世界のTOPブランドへ～

環境変化

市場競争激化

テクノロジーの進化

競争土壌の変化

着眼点

足元固めと新商品の弾込め

生産能力・  
生産性向上

現場力向上

新商品開発

方策

オペレーションのレベルアップ  
無人化／自動化

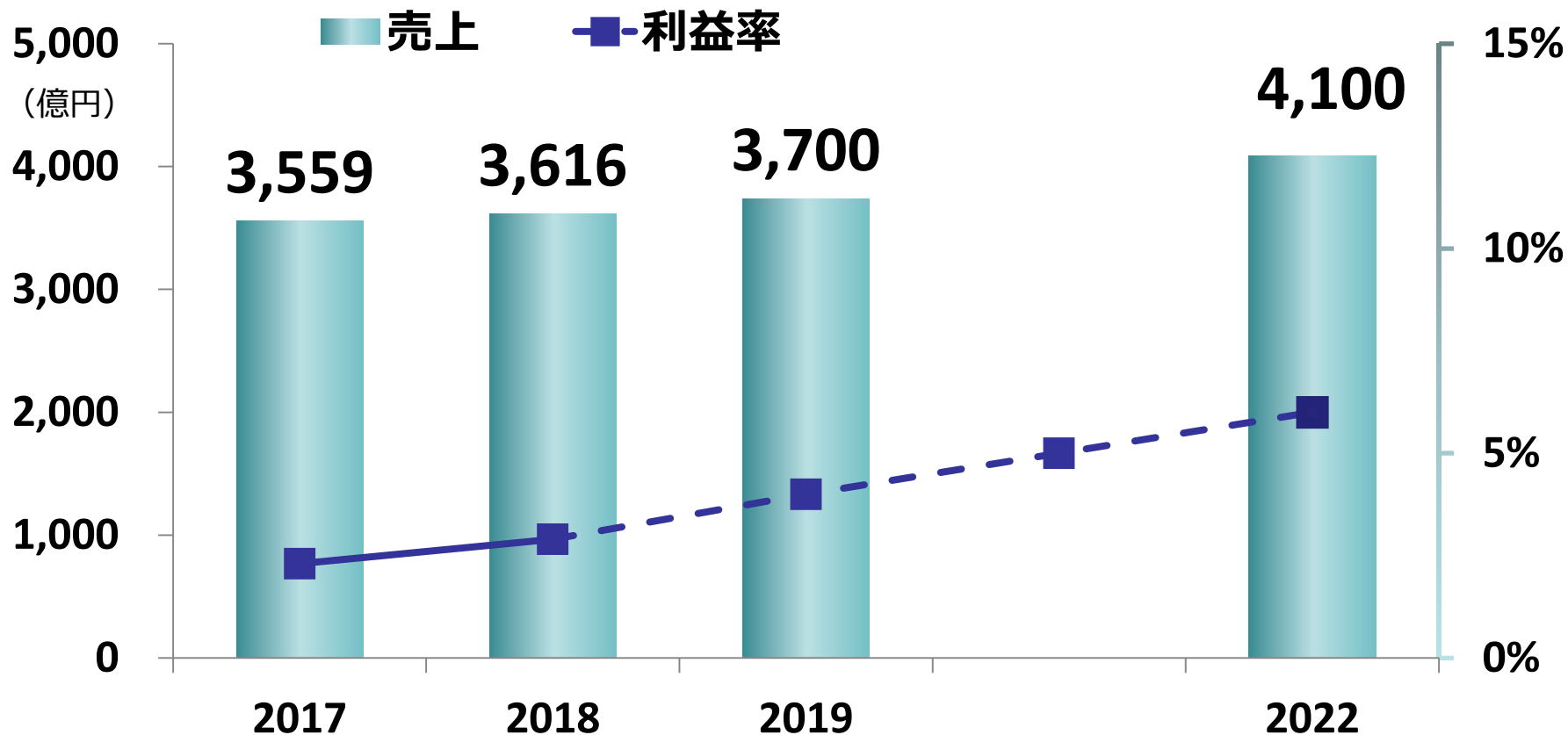
新商品開発

# 3-1-4) 軸受 中期事業計画の見通し

売上・利益見通し

95円/\$, 110円/€, 16円/元

上期：生産性悪化、直材価格上昇、工場再編費用増により利益計画未達  
 下期：つくり改善としくみづくりで生産性向上し見直し利益計画で挽回



# 3-1-4) 地域別課題

## 日・米・欧 収益悪化の課題

欧州

収益悪化

◆国分工場（産機軸受）

北米

日本

収益悪化

- ◆イギリス工場（HUB）
- ◆ルーマニア工場（TRB、SBB）
- ◆フランス工場（NRB）

収益悪化

- ◆リッチランド工場（HUB）
- ◆アメリカ TRB 3 工場

# 3-1-4) 地域別課題

## 日・米・欧 収益悪化の課題と対応

地域	主な課題	課題への対応
日本	<p>◆収益対策の推進</p> <p>国分工場（産機軸受）                      収益悪化、生産性悪化、経費増</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくり改善としくみづくりにより2020年3月黒字化を目指す</li> </ul>
北米	<p>◆構造改革の推進</p> <p>リッチランド工場（HUB）                      生産性向上、鋼材関税                      アメリカ TRB 3工場                      量の確保とコスト低減、鋼材関税</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロアマネジメント強化</li> <li>・直材の外製化、拠点別生産計画見直し</li> </ul>
欧州	<p>◆構造改革の推進</p> <p>イギリス工場（HUB）                      生産性が悪化                      ルーマニア工場（TRB、SBB）                      離職率、労務費の悪化                      フランス工場（NRB）                      再編後、生産性が悪化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロアマネジメント強化</li> <li>・直材コスト低減</li> <li>・処遇見直し、後継者育成</li> <li>・現場力強化、欧州域内の人材活用、教育</li> </ul>

# 3-1-4) 生産力強化

## 全拠点共通の生産及び収益性向上の具体的な取組み

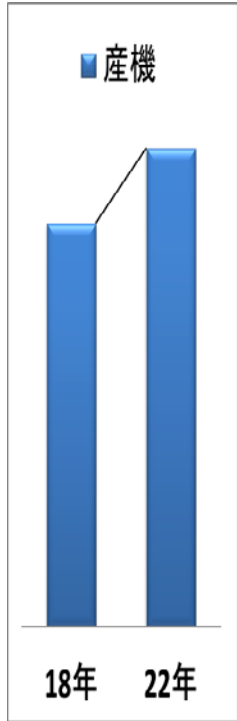
足元固め

項目	具体的対応	品種	対象地域					
			日本	北米	欧州	インド	中国	アセアン
現場力強化	◇フロアマネジメント (TQM再教育)	—	○	○	○	○	○	○
	◇老朽化設備の更新	—	○	○	○	○	○	○
生産性/ 生産能力 向上	◇能力向上 ・高速ライン化・小ロット生産対応	TRB	○	○	○	—	—	—
		SBB	○	○	○	—	—	—
	◇能力増強	TRB	—	—	○	○	○	○
		HUB	—	—	—	○	○	○
	◇協業・第2ソース活用	TRB	—	—	—	—	○	—
SBB		—	—	—	—	○	—	
HUB		—	—	—	—	○	—	
◇加工～組立 一貫工程構築	HUB	○	—	—	—	—	—	
無人化/ 自動化	◇1H無人稼動モデルラインの展開 ・自動外観検査機、材料、梱包作業	SBB	○	—	—	—	—	—
		TRB	○	○	—	—	—	—
		HUB	○	—	—	—	—	—

## 新商品開発 (産機用軸受 : 使用環境の多様化に対応)

弾込め

### ◆産機用売上



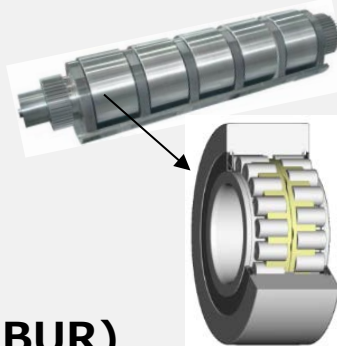
約25%伸長

### ◆鉄鋼

- ・高密封、高耐久

#### 【用途】

- ・多段圧延機用  
バックアップ<sup>®</sup>ロール(BUR)



BUR用軸受

### ◆特殊環境

- ・腐食環境での  
高耐久性

#### 【用途】

- ・半導体製造装置
- ・FPD製造装置



高耐食軸受

### ◆流体機器

- ・潤滑性向上

#### 【用途】

- ・油圧機器
- ・コンプレッサー



PPS保持器付き  
円筒ころ軸受

### ◆超高性能

- ・超精密、静粛性

#### 【用途】

- ・工作機械
- ・宇宙機器



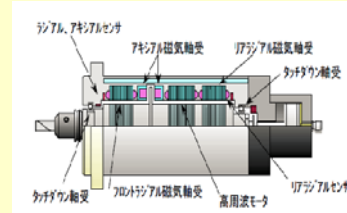
## 新商品開発への取組み例 2030年売上の10%へ

弾  
込  
め

### ◆制御型磁気軸受ユニット

商品：地下資源、水の浄化など装置の  
回転部冷却装置の支持、メンテナンスフリー

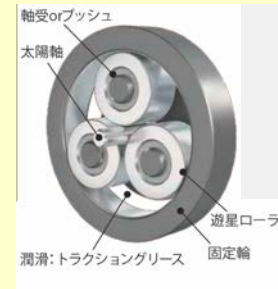
取組み：2019年度～販売開始予定



### ◆トラクションドライブ

商品：印刷機ユニット、ロボットなどの  
精密減速機ユニット

取組み：他用途への展開検討中

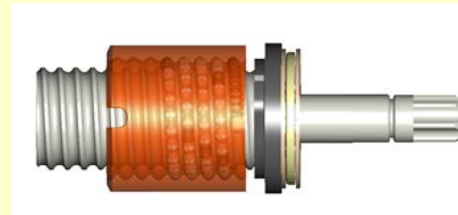


### ◆電動ブレーキ用アクチュエーター

商品：HEV・PHEV・EV用  
ブレーキアクチュエーター

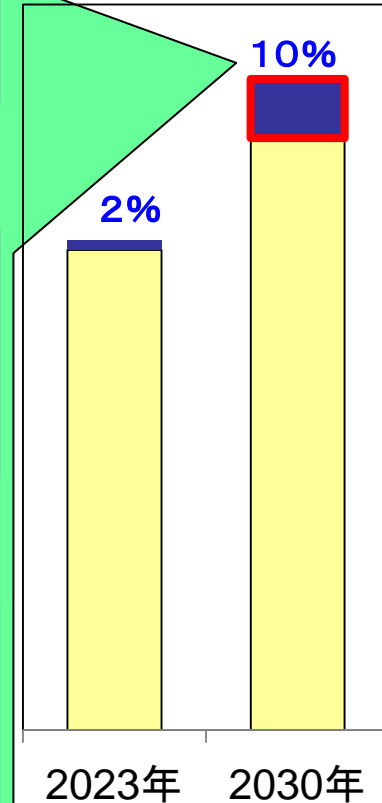
取組み：2022年度～販売開始予定

ボールねじ スラストNRB



<ボールねじアッシー構造>

### ◆新商品売上



# 5) 工作機械・メカトロ事業戦略



# 3-1-5) 工作機械・メカトロ事業 成長戦略

## モノづくりすべてのフェーズでバリューを提供

環境変化

### 市場/テクノロジーの進化

- ・モビリティの変化
- ・労働人口の減少
- ・コスト競争激化

- ・加工技術の進化  
(AM、超精密旋削など)
- ・AI技術の進化

着眼点

- ✓EV化、エンジン小型化対応
- ✓収益力強化

- ✓加工技術 新分野強化
- ✓AI化、自動化強化

方策

自動車パワートレントント"変化へ対応強化

労働人口減少へ対応強化

事業構造改革

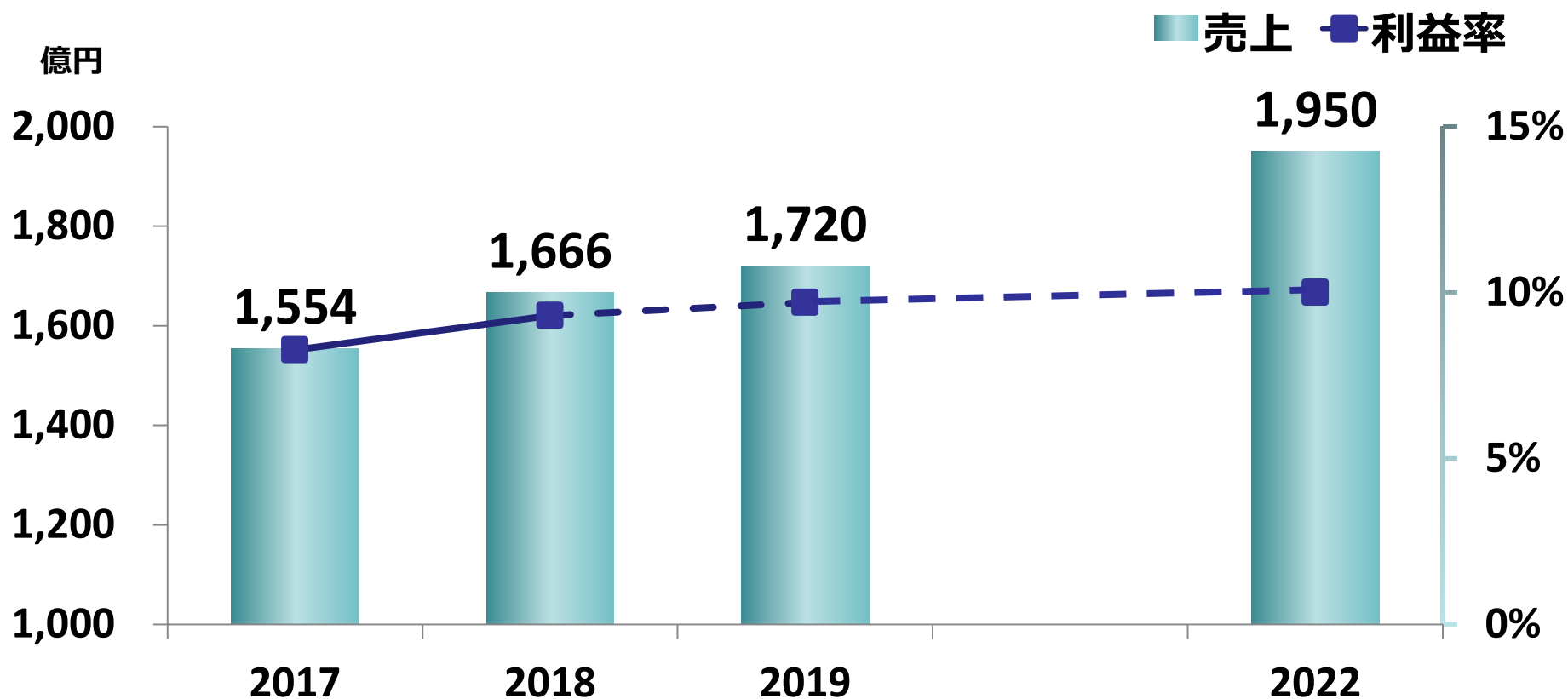
# 3-1-5) 工作機械・メトロ 中期事業計画の見通し

2018年度通期の売上・利益見通し

95円/\$, 110円/€, 16円/元

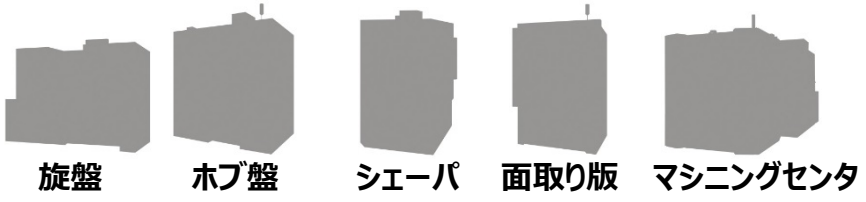
上期：研削盤と半導体処理装置が伸び増収増益

下期：貿易摩擦が懸念されるが、引き続き増収増益の見通し



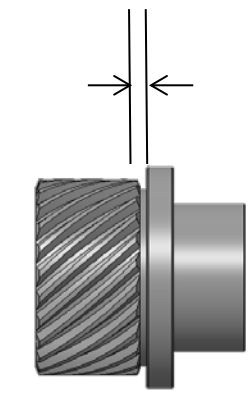
# 3-1-5) 自動車パワートレント“変化”変化へ対応強化

## ギヤの小型化と多種生産に対応



生産工程の汎用化

JIMTOF2018  
第29回 日本国際工作機械見本市



ミニマム化



一体化

## ダウンサイジングエンジンに対応

JIMTOF2018  
第29回 日本国際工作機械見本市

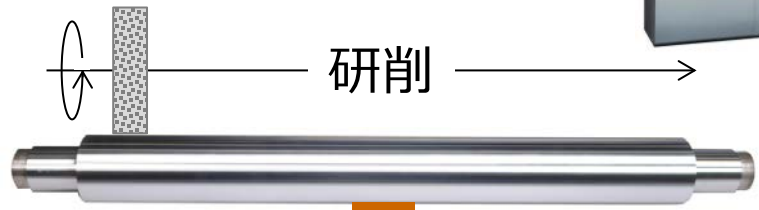


コンパクト化



## 電池ロールの高精度対応

JIMTOF2018  
第29回 日本国際工作機械見本市



研削



たわみ自動補正



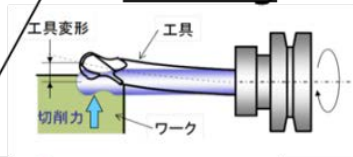
# 3-1-5) 労働人口減少へ対応強化

## 機械をスマート化

## スマートファクトリーパートナー

JTEKT SMART

Cutting



工具寿命管理

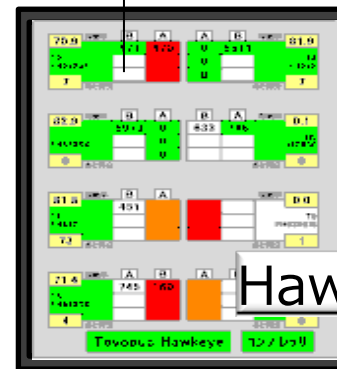
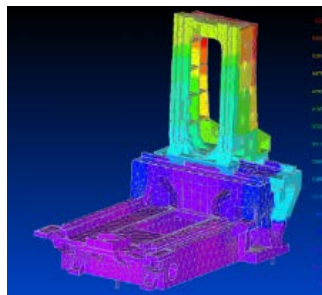
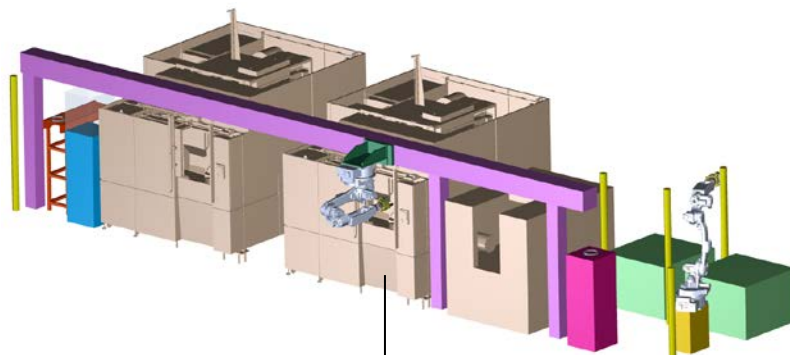


AAA

リアルタイム熱変位補正

データ収集/蓄積

ベテランに代わる 匠の自動化

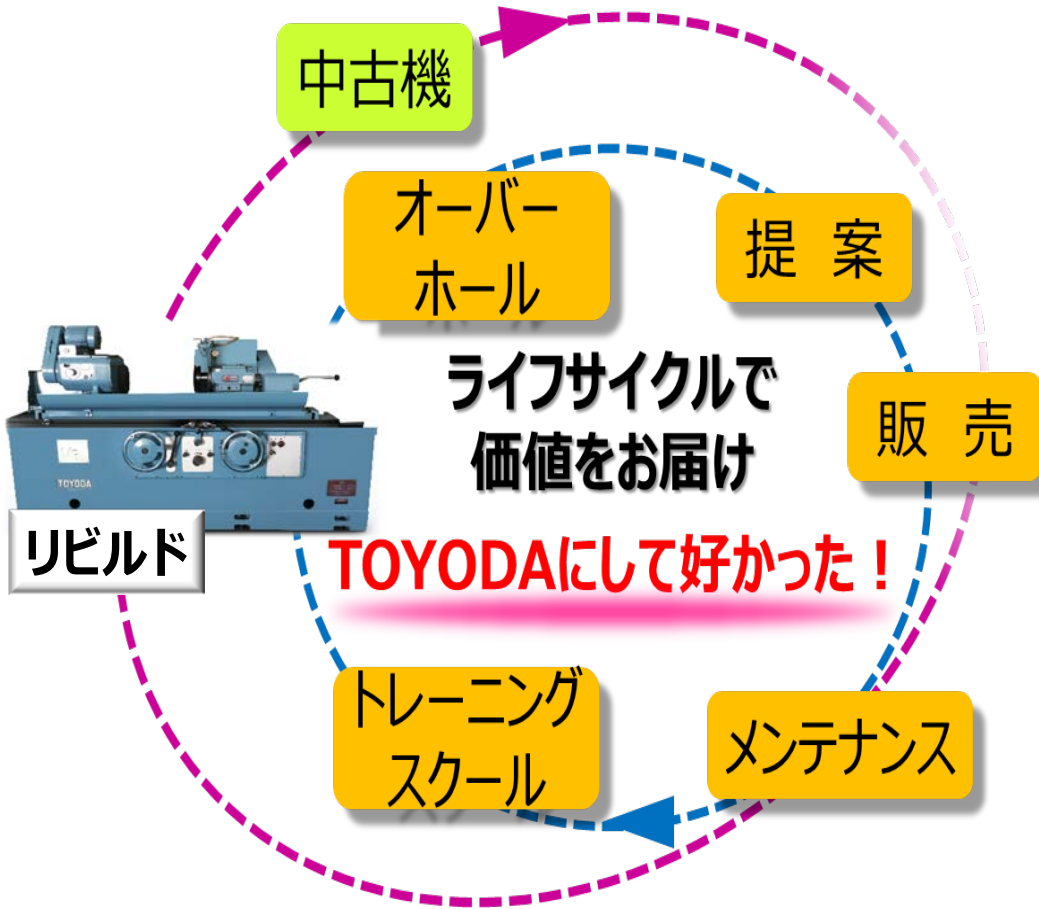


Hawkeye

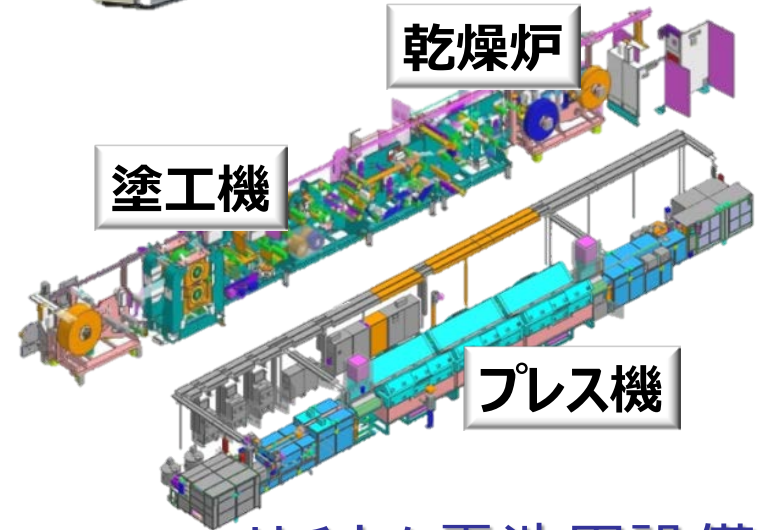
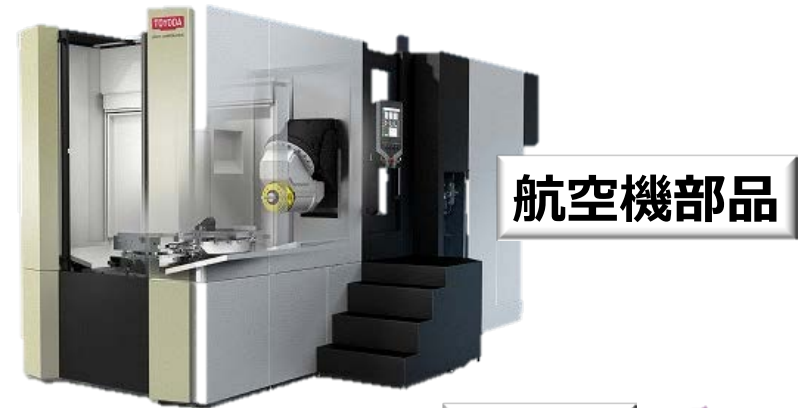
社内でユースケースを蓄積  
⇒成功事例をお客様へ提供

## アフターサービスで基盤づくり

## ニーズ先取りで新分野開拓



## 5軸マシニングセンタ



## リチウム電池用設備

## 6)新規事業の取組み

# 3-1-6) 新規事業の取組み (キャパシタ・J-PAS)

## リチウムイオンキャパシタ 生産準備

2019/4~8

東刈谷事業所 : 2,000セル/月



設備移設+追加

2019/10~

花園工場 : 40,000セル/月



リチウムイオンキャパシタ生産棟完成予想図  
(2019/7/末 竣工予定)

## パワーアシストスーツ ISO13482認証取得

サービスロボットや生活支援  
ロボットの安全規格

国際規格による安全要求  
充足の証明



お客様の製品に対する  
安心と信頼性向上



シリーズ化展開

小型軽量中出カタイプ  
の開発加速

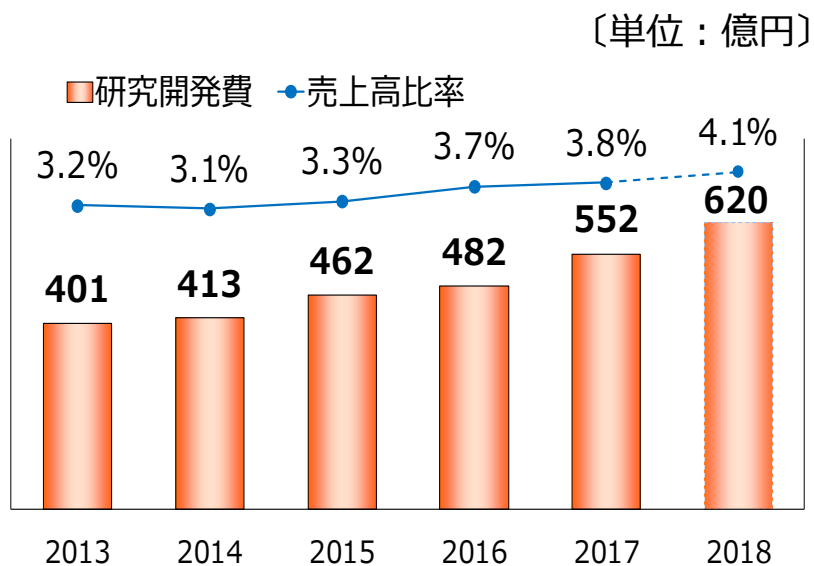


# 企業価値向上に向けて ～ファンダメンタルズ強化

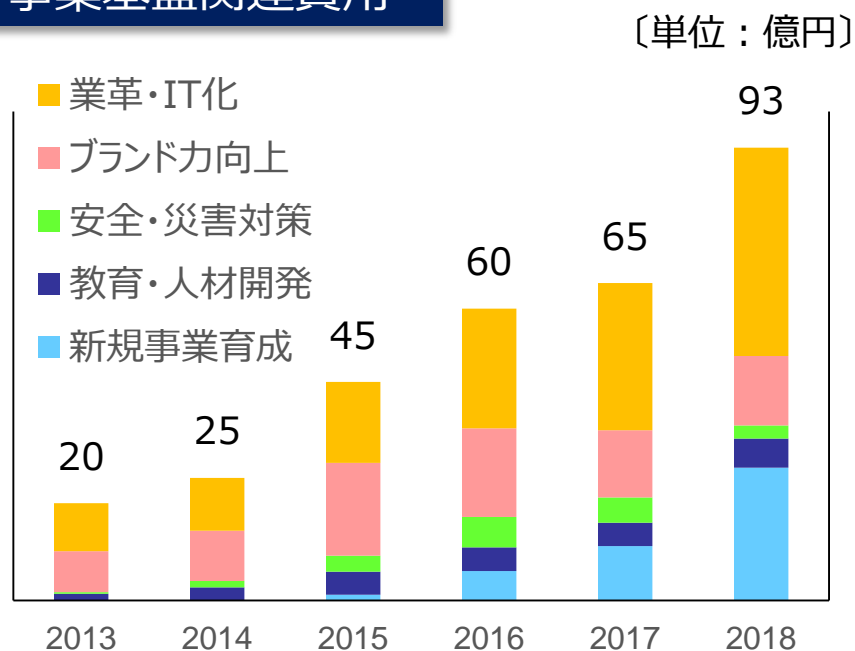


## 足腰強靱化のために積極投資し持続的成長に繋げる

### 研究開発費推移



### 事業基盤関連費用

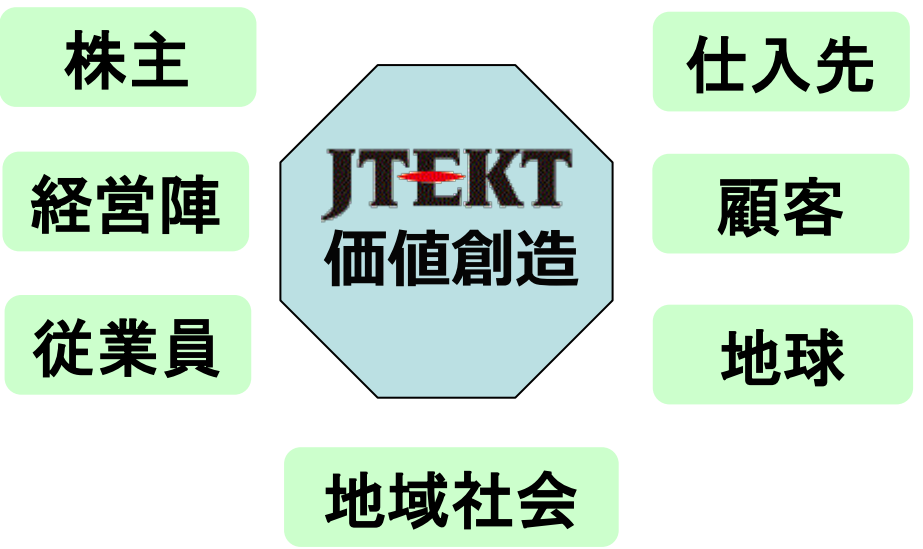


**将来の収益基盤を担う新規製品・サービス創造のため  
研究開発費の増加傾向は維持し、新規事業育成に厚めに投資**

# 3-2) 持続的成長の礎となる経営コンセプト

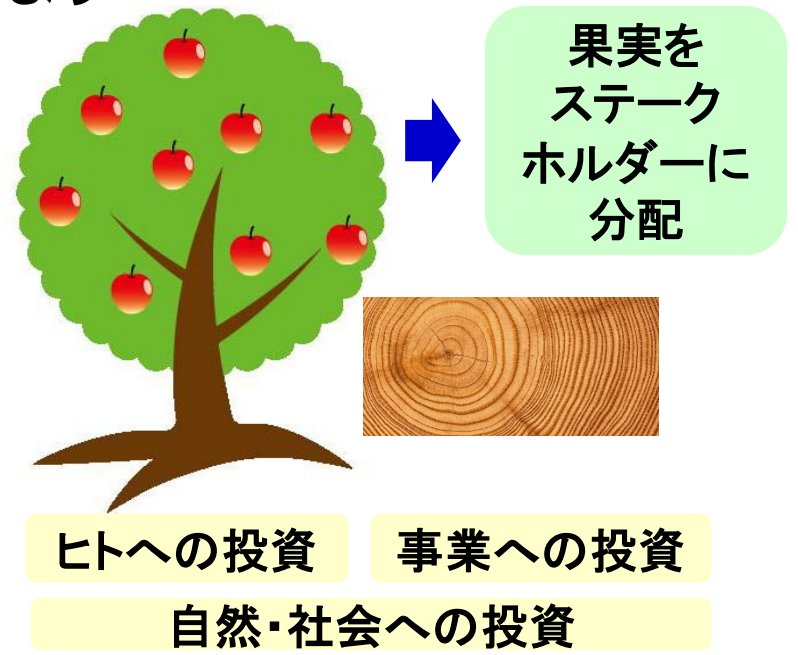
## 公益資本主義

JTEKTの事業活動により創造された価値を、地球環境を含めた各ステークホルダーのベネフィットを考慮して分配します

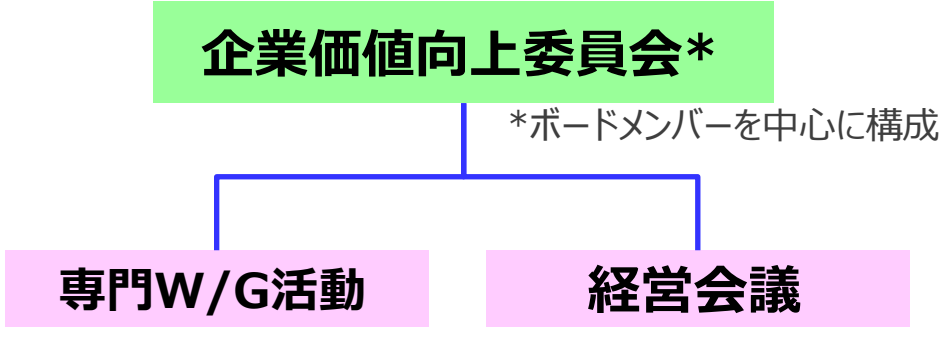


## 年輪経営

様々な投資を栄養分にして JTEKTは持続的に成長する「いい会社になる」ことを目指します



## ESG強化の具体的な施策推進と確実なアウトプット



**推進・進捗モニタリング**  
(トップダウンでESG  
にリソースを付与)

### 実績としてのアウトプット

統合報告書  
(日英版)



サステナビリティWebサイト  
(日英版)



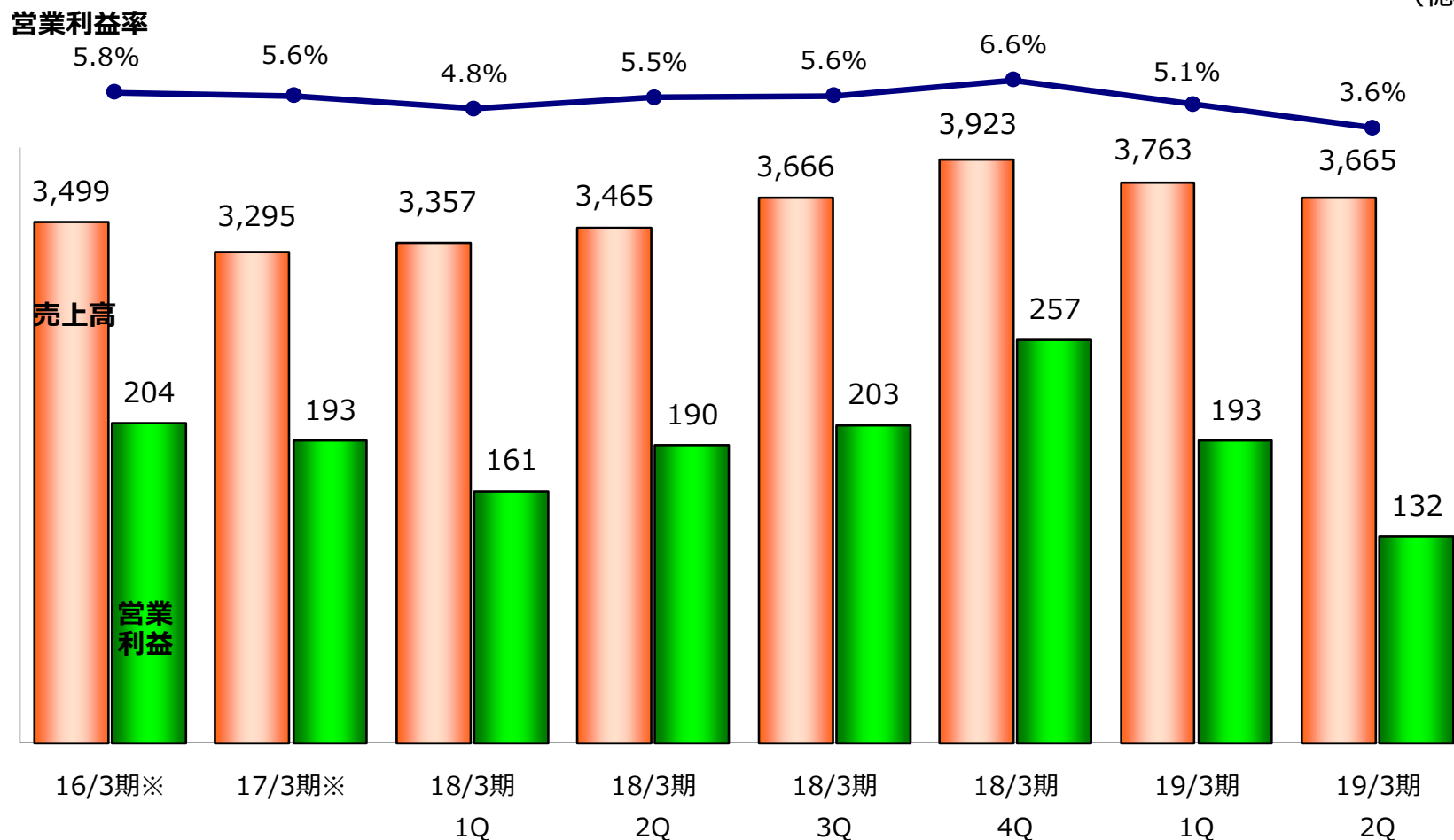
### 推進中タスク

**外部ESG  
格付取得に向け  
態勢整備**

**ご清聴ありがとうございました**

# (参考) 四半期業績推移

(億円)



USD	120円	108円	111円	111円	113円	108円	109円	111円
EUR	133円	119円	122円	130円	133円	133円	130円	130円

※ 16/3期、17/3期は四半期平均。これ以降のスライドについても同様です。

# (参考) 事業別売上高予想

(億円)

		18/3期 通期(実績)	19/3期(予想)			増減額	増減率
			上期(実績)	下期(予想)	通期(予想)		
機械器具部品	ステアリング	7,118	3,698	3,856	7,555	+ 436	+ 6.1%
	駆 動	1,454	769	770	1,540	+ 85	+ 5.9%
	軸 受	4,223	2,112	2,077	4,190	△ 33	△ 0.8%
	【 合 計 】	12,795	6,580	6,704	13,285	+ 489	+ 3.8%
工作機械他	工 作 機 械	1,600	840	859	1,700	+ 99	+ 6.2%
	そ の 他	15	8	6	15	+ 0	△ 1.5%
	【 合 計 】	1,615	848	866	1,715	+ 99	+ 6.1%
【売上高合計】		14,411	7,429	7,570	15,000	+ 588	+ 4.1%

# (参考) 法人所在地別売上高予想

(億円)

	18/3期 通期(実績)	19/3期(予想)			増減額	増減率
		上期(実績)	下期(予想)	通期(予想)		
日本	5,824	2,967	3,017	5,985	+ 160	+ 2.8%
欧州	2,207	1,132	1,187	2,320	+ 112	+ 5.1%
北米	2,982	1,547	1,497	3,045	+ 62	+ 2.1%
豪亜 (インド含む)	1,644	883	886	1,770	+ 125	+ 7.7%
中国	1,469	761	848	1,610	+ 140	+ 9.5%
南米他	283	126	143	270	△ 13	△ 4.7%
<b>【売上高合計】</b>	<b>14,411</b>	<b>7,418</b>	<b>7,581</b>	<b>15,000</b>	<b>+ 588</b>	<b>+ 4.1%</b>

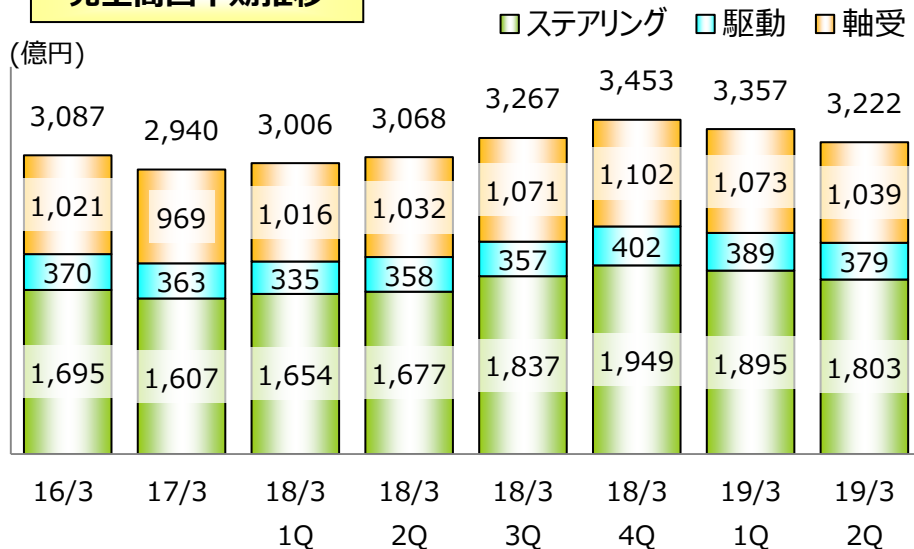
# (参考) 事業別業績【機械器具部品】

(億円)

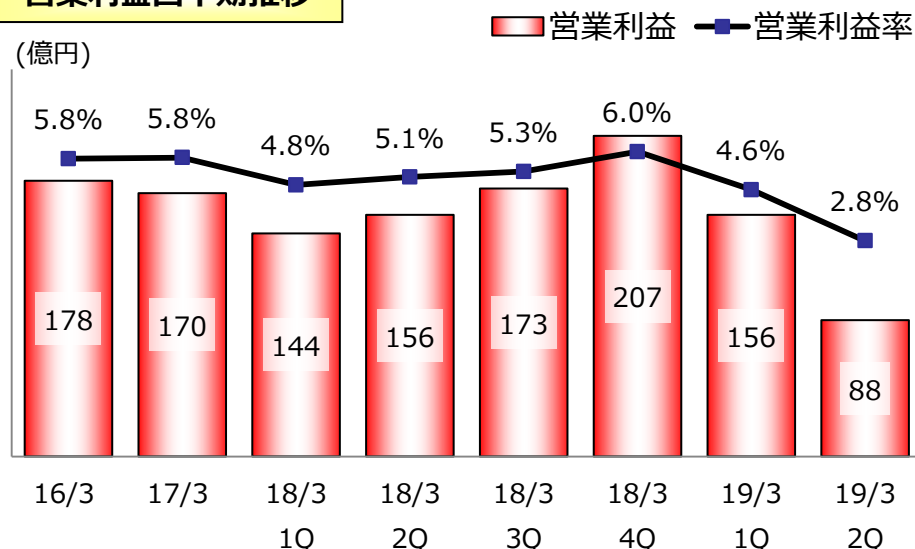
機械器具部品		18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減額	増減率
ステアリング	売上高	3,331	3,698	+ 367	+ 11.0%
駆 動	売上高	694	769	+ 75	+ 10.9%
軸 受	売上高	2,049	2,112	+ 62	+ 3.1%
【 合 計 】	売上高	6,074	6,580	+ 505	+ 8.3%
	営業利益	301	244	△ 56	△ 18.8%
	利益率	5.0%	3.7%		

※「消去」は省略しております。

売上高四半期推移



営業利益四半期推移





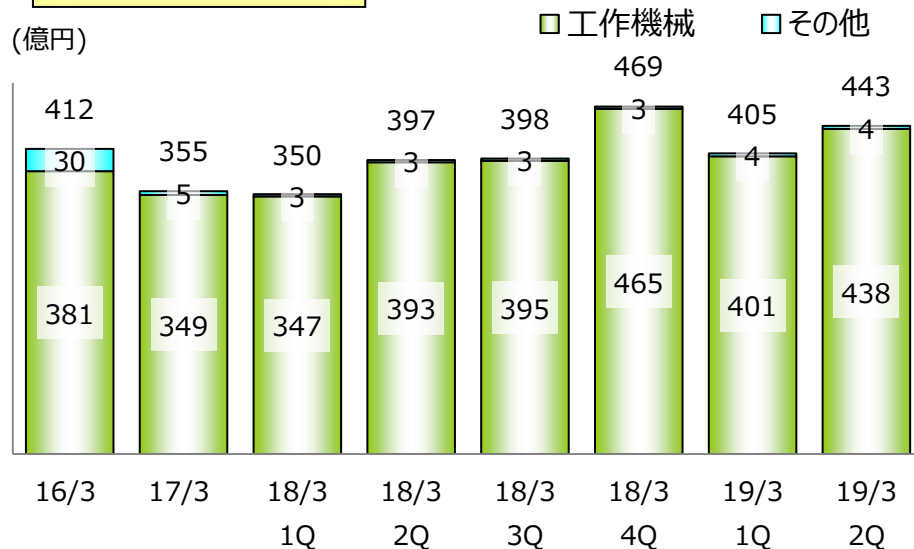
# (参考) 事業別業績【工作機械 他】

(億円)

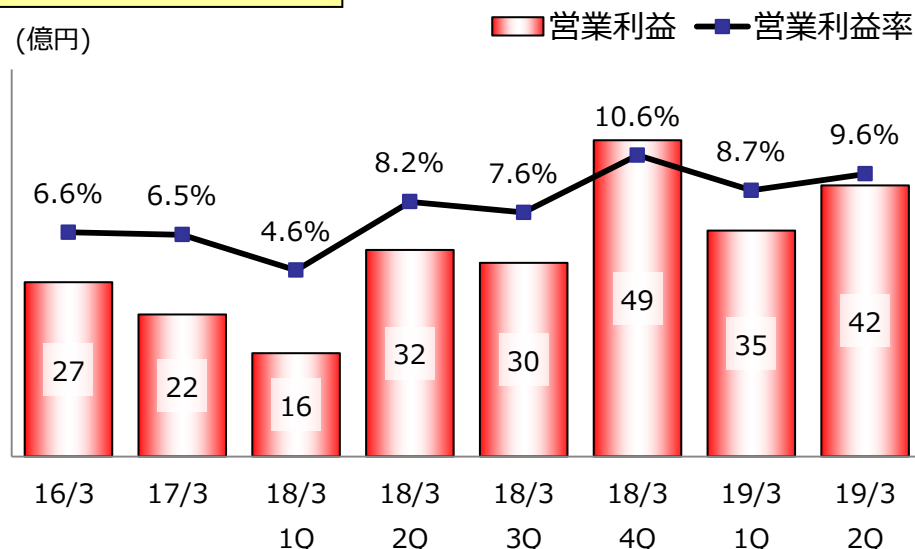
工 作 機 械 他		18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
工 作 機 械	売 上 高	740	840	+ 100	+ 13.5%
そ の 他	売 上 高	7	8	+ 0	+ 10.0%
【 合 計 】	売 上 高	748	848	+ 100	+ 13.5%
	営 業 利 益	48	77	+ 29	+ 60.2%
	利 益 率	6.5%	9.2%		

※「消去」は省略しております。

売上高四半期推移



営業利益四半期推移



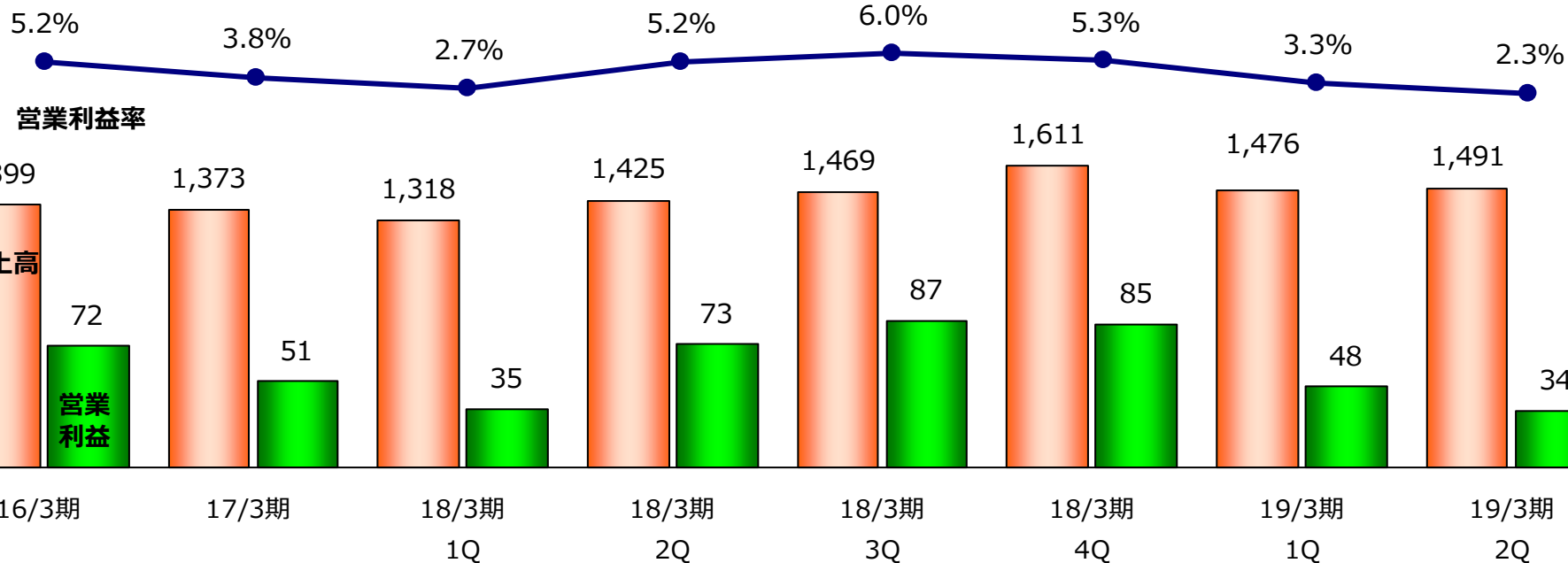
# (参考) 法人所在地別業績【日本】

(億円)

日 本	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	2,743	2,967	+ 223	+ 8.2%
営 業 利 益	109	82	△ 26	△ 24.4%
利 益 率	4.0%	2.8%		

## 四半期推移

(億円)



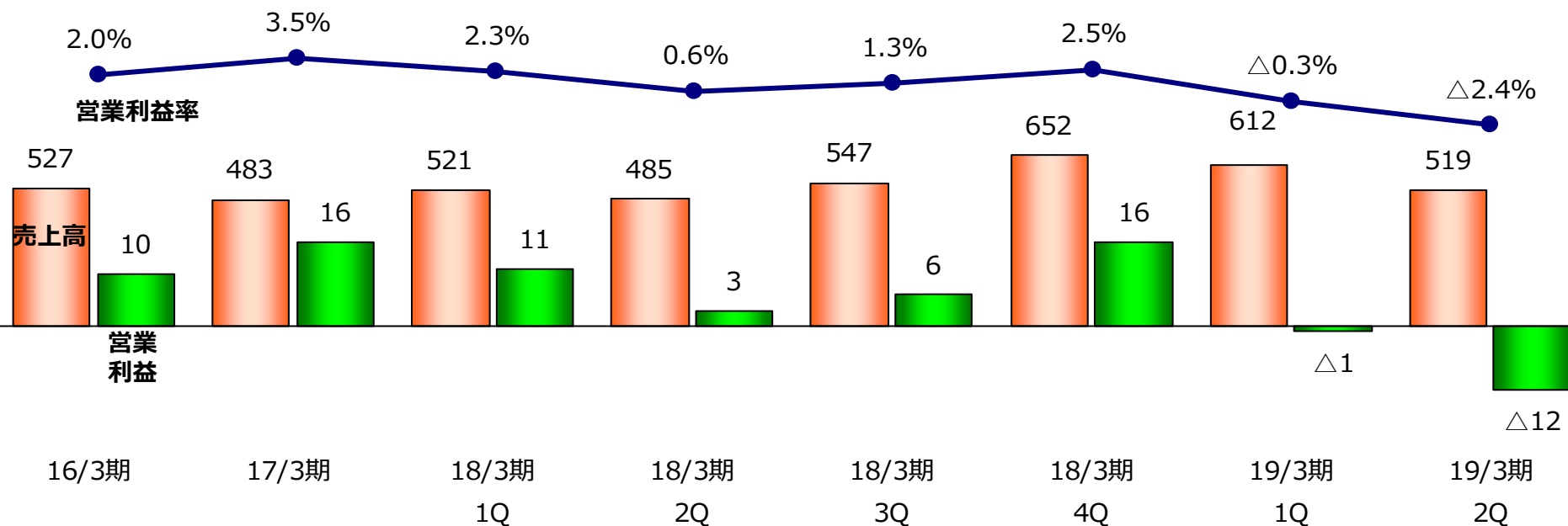
# (参考) 法人所在地別業績【欧州】

(億円)

欧 州	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	1,006	1,132	+ 125	+ 12.5%
営 業 利 益	15	△ 14	△ 29	△ 193.7%
利 益 率	1.5%	△ 1.2%		

## 四半期推移

(億円)



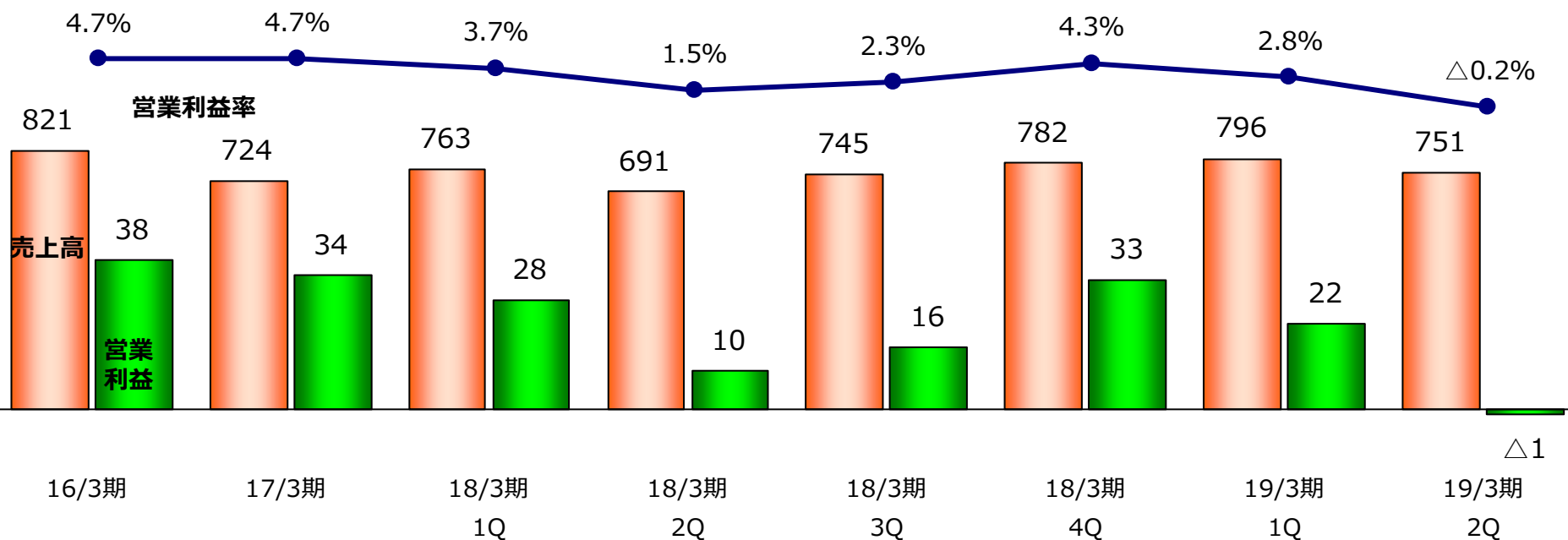
# (参考) 法人所在地別業績【北米】

(億円)

北 米	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	1,454	1,547	+ 92	+ 6.4%
営 業 利 益	39	21	△ 17	△ 45.8%
利 益 率	2.7%	1.4%		

## 四半期推移

(億円)



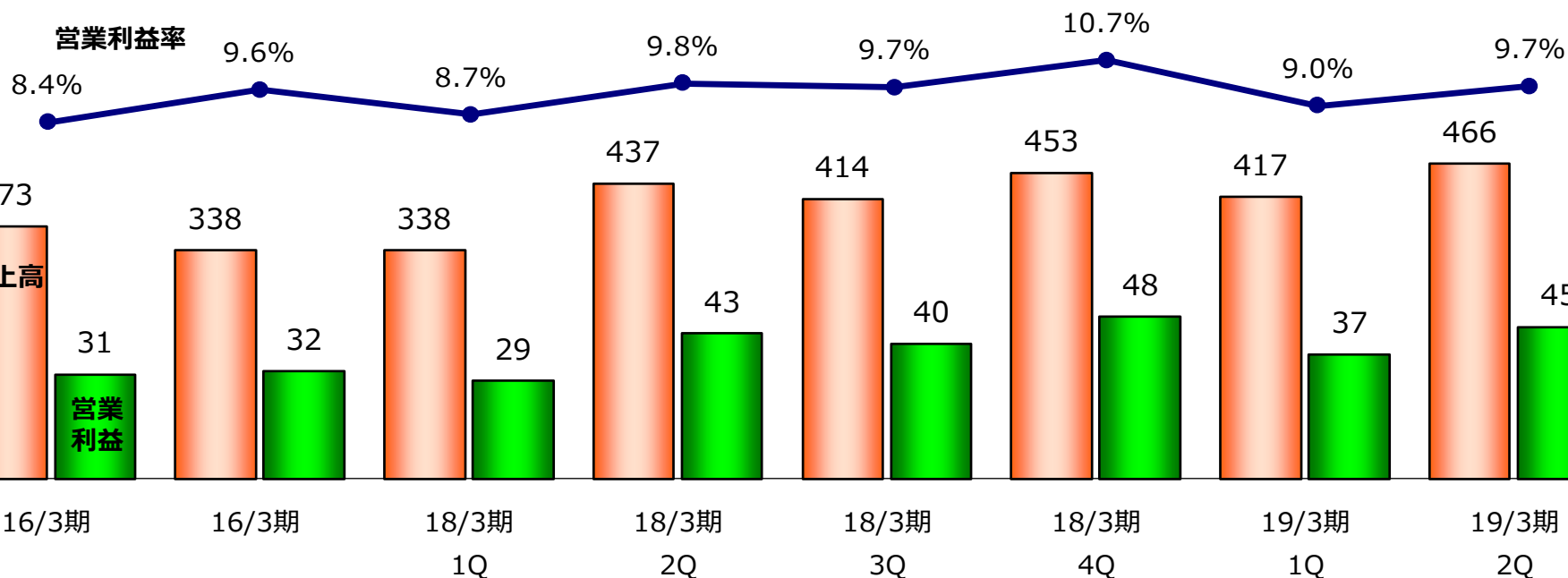
# (参考) 法人所在地別業績【豪亜(インド含む)】

(億円)

豪 亜 (インド含む)	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	775	883	+ 107	+ 13.9%
営 業 利 益	72	82	+ 10	+ 14.6%
利 益 率	9.3%	9.4%		

## 四半期推移

(億円)



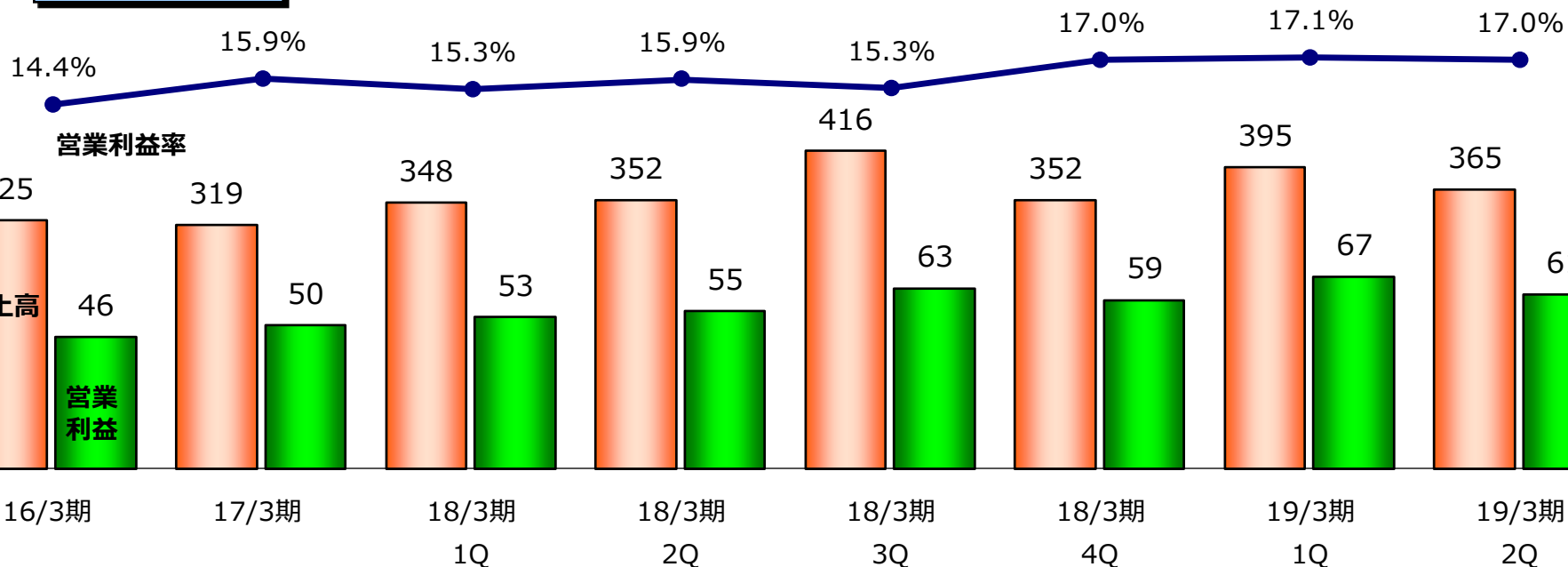
# (参考) 法人所在地別業績【中国】

(億円)

中 国	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	700	761	+ 60	+ 8.6%
営 業 利 益	109	129	+ 20	+ 18.8%
利 益 率	15.6%	17.0%		

## 四半期推移

(億円)



# (参考) 法人所在地別業績【南米 他】

(億円)

南米 他	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減額	増減率
売上高	141	137	△ 4	△ 3.0%
営業利益	12	8	△ 3	△ 28.2%
利益率	8.7%	6.5%		

(億円)

## 四半期推移

